

区分	頁・行	誤	備考																																																
下水編	開削 62 (78)	<p>2) 注入設備移設 注入設備を中心に半径50mを超える場合、又は同一現場内に施工箇所が2箇所以上あり、注入設備を移設しなければならない場合の歩掛は次表とする。</p> <p style="text-align: center;">表-39-22 注入設備 移設歩掛 (地上) (1現場当り)</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th rowspan="3">名称</th> <th rowspan="3">単位</th> <th rowspan="3">規格</th> <th colspan="2">二重ストレーナ工法</th> <th colspan="3">二重管ダブルバッカー工法</th> </tr> <tr> <th rowspan="2">2セット</th> <th rowspan="2">4セット</th> <th colspan="2">削孔</th> <th>注入</th> </tr> <tr> <th>1セット</th> <th>2セット</th> <th>4セット</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>土木一般世話役</td> <td>人</td> <td></td> <td>1.3</td> <td>2.0</td> <td>1.0</td> <td>1.0</td> <td>2.0</td> </tr> <tr> <td>特殊作業員</td> <td>人</td> <td></td> <td>5.5</td> <td>8.5</td> <td>3.0</td> <td>4.0</td> <td>7.5</td> </tr> <tr> <td>普通作業員</td> <td>人</td> <td></td> <td>2.2</td> <td>3.5</td> <td>1.0</td> <td>1.5</td> <td>2.5</td> </tr> <tr> <td>トラック運転 (クレーン装置付)</td> <td>時間</td> <td>4t級2.9t</td> <td>8</td> <td>11</td> <td>4</td> <td>4</td> <td>12</td> </tr> </tbody> </table>	名称	単位	規格	二重ストレーナ工法		二重管ダブルバッカー工法			2セット	4セット	削孔		注入	1セット	2セット	4セット	土木一般世話役	人		1.3	2.0	1.0	1.0	2.0	特殊作業員	人		5.5	8.5	3.0	4.0	7.5	普通作業員	人		2.2	3.5	1.0	1.5	2.5	トラック運転 (クレーン装置付)	時間	4t級2.9t	8	11	4	4	12	単位の訂正
名称	単位	規格				二重ストレーナ工法		二重管ダブルバッカー工法																																											
						2セット	4セット	削孔		注入																																									
			1セット	2セット	4セット																																														
土木一般世話役	人		1.3	2.0	1.0	1.0	2.0																																												
特殊作業員	人		5.5	8.5	3.0	4.0	7.5																																												
普通作業員	人		2.2	3.5	1.0	1.5	2.5																																												
トラック運転 (クレーン装置付)	時間	4t級2.9t	8	11	4	4	12																																												
正																																																			
<p>2) 注入設備移設 注入設備を中心に半径50mを超える場合、又は同一現場内に施工箇所が2箇所以上あり、注入設備を移設しなければならない場合の歩掛は次表とする。</p> <p style="text-align: center;">表-39-22 注入設備 移設歩掛 (地上) (1回当り)</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th rowspan="3">名称</th> <th rowspan="3">単位</th> <th rowspan="3">規格</th> <th colspan="2">二重ストレーナ工法</th> <th colspan="3">二重管ダブルバッカー工法</th> </tr> <tr> <th rowspan="2">2セット</th> <th rowspan="2">4セット</th> <th colspan="2">削孔</th> <th>注入</th> </tr> <tr> <th>1セット</th> <th>2セット</th> <th>4セット</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>土木一般世話役</td> <td>人</td> <td></td> <td>1.3</td> <td>2.0</td> <td>1.0</td> <td>1.0</td> <td>2.0</td> </tr> <tr> <td>特殊作業員</td> <td>人</td> <td></td> <td>5.5</td> <td>8.5</td> <td>3.0</td> <td>4.0</td> <td>7.5</td> </tr> <tr> <td>普通作業員</td> <td>人</td> <td></td> <td>2.2</td> <td>3.5</td> <td>1.0</td> <td>1.5</td> <td>2.5</td> </tr> <tr> <td>トラック運転 (クレーン装置付)</td> <td>時間</td> <td>4t級2.9t</td> <td>8</td> <td>11</td> <td>4</td> <td>4</td> <td>12</td> </tr> </tbody> </table>				名称	単位	規格	二重ストレーナ工法		二重管ダブルバッカー工法			2セット	4セット	削孔		注入	1セット	2セット	4セット	土木一般世話役	人		1.3	2.0	1.0	1.0	2.0	特殊作業員	人		5.5	8.5	3.0	4.0	7.5	普通作業員	人		2.2	3.5	1.0	1.5	2.5	トラック運転 (クレーン装置付)	時間	4t級2.9t	8	11	4	4	12
名称	単位	規格	二重ストレーナ工法				二重管ダブルバッカー工法																																												
			2セット				4セット	削孔		注入																																									
				1セット	2セット	4セット																																													
土木一般世話役	人		1.3	2.0	1.0	1.0	2.0																																												
特殊作業員	人		5.5	8.5	3.0	4.0	7.5																																												
普通作業員	人		2.2	3.5	1.0	1.5	2.5																																												
トラック運転 (クレーン装置付)	時間	4t級2.9t	8	11	4	4	12																																												

平成27年10月 土木工事積算基準等正誤表

区分	頁・行	誤	備考																												
下水編	開削 77 (93)	<p style="text-align: center;">LC-57-1 小型マンホール（塩化ビニル製） (1箇所当り)</p> <table border="1" style="margin-left: auto; margin-right: auto;"> <thead> <tr> <th>種 目</th> <th>形 状 寸 法</th> <th>単 位</th> <th>数 量</th> <th>単 価 (円)</th> <th>金 額 (円)</th> <th>摘 要</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>蓋 材 料 費</td> <td>鋳鉄製防護蓋</td> <td>個</td> <td>1</td> <td>∴</td> <td>∴</td> <td>∴</td> </tr> <tr> <td>小型マンホール設置工</td> <td>塩化ビニル製・形式</td> <td>箇所</td> <td>1</td> <td>∴</td> <td>∴</td> <td>LD-57-1（市場単価）</td> </tr> <tr> <td>計</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>∴</td> <td>∴</td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	種 目	形 状 寸 法	単 位	数 量	単 価 (円)	金 額 (円)	摘 要	蓋 材 料 費	鋳鉄製防護蓋	個	1	∴	∴	∴	小型マンホール設置工	塩化ビニル製・形式	箇所	1	∴	∴	LD-57-1（市場単価）	計				∴	∴		文字の追加
種 目	形 状 寸 法	単 位	数 量	単 価 (円)	金 額 (円)	摘 要																									
蓋 材 料 費	鋳鉄製防護蓋	個	1	∴	∴	∴																									
小型マンホール設置工	塩化ビニル製・形式	箇所	1	∴	∴	LD-57-1（市場単価）																									
計				∴	∴																										
正																															
<p style="text-align: center;">LC-57-1 小型マンホール（塩化ビニル製） (1箇所当り)</p> <table border="1" style="margin-left: auto; margin-right: auto;"> <thead> <tr> <th>種 目</th> <th>形 状 寸 法</th> <th>単 位</th> <th>数 量</th> <th>単 価 (円)</th> <th>金 額 (円)</th> <th>摘 要</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>蓋 材 料 費</td> <td>鋳鉄製防護蓋</td> <td>個</td> <td>1</td> <td>∴</td> <td>∴</td> <td>必要に応じて計上</td> </tr> <tr> <td>小型マンホール設置工</td> <td>塩化ビニル製・形式</td> <td>箇所</td> <td>1</td> <td>∴</td> <td>∴</td> <td>LD-57-1（市場単価）</td> </tr> <tr> <td>計</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>∴</td> <td>∴</td> <td></td> </tr> </tbody> </table>				種 目	形 状 寸 法	単 位	数 量	単 価 (円)	金 額 (円)	摘 要	蓋 材 料 費	鋳鉄製防護蓋	個	1	∴	∴	必要に応じて計上	小型マンホール設置工	塩化ビニル製・形式	箇所	1	∴	∴	LD-57-1（市場単価）	計				∴	∴	
種 目	形 状 寸 法	単 位	数 量	単 価 (円)	金 額 (円)	摘 要																									
蓋 材 料 費	鋳鉄製防護蓋	個	1	∴	∴	必要に応じて計上																									
小型マンホール設置工	塩化ビニル製・形式	箇所	1	∴	∴	LD-57-1（市場単価）																									
計				∴	∴																										

平成27年10月 土木工事積算基準等正誤表

区分	頁・行	誤	備考																																																								
下水編	中大口 44 (224)	<p>LD-119-1 推進用機器据付撤去工（泥水式・泥濃式推進） 施工単価コード DG D20770 (1箇所当り)</p> <table border="1" data-bbox="645 368 1794 635"> <thead> <tr> <th>種 目</th> <th>形 状 寸 法</th> <th>単 位</th> <th>数 量</th> <th>単 価 (円)</th> <th>金 額 (円)</th> <th>摘 要</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>土 木 一 般 世 話 役</td> <td></td> <td>人</td> <td></td> <td>∴</td> <td>∴</td> <td>表-119-1</td> </tr> <tr> <td>特 殊 作 業 員</td> <td></td> <td>人</td> <td></td> <td>∴</td> <td>∴</td> <td>表-119-1</td> </tr> <tr> <td>普 通 作 業 員</td> <td></td> <td>人</td> <td></td> <td>∴</td> <td>∴</td> <td>表-119-1</td> </tr> <tr> <td>床 板 材</td> <td></td> <td>m³</td> <td></td> <td>∴</td> <td>∴</td> <td>必要数量を計上</td> </tr> <tr> <td>門 型 ク レ ーン 運 転 費</td> <td></td> <td>日</td> <td></td> <td>∴</td> <td>∴</td> <td>表-119-1</td> </tr> <tr> <td>諸 雑 費</td> <td></td> <td>式</td> <td>1</td> <td>∴</td> <td>∴</td> <td>諸雑費</td> </tr> <tr> <td>計</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>∴</td> <td>∴</td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	種 目	形 状 寸 法	単 位	数 量	単 価 (円)	金 額 (円)	摘 要	土 木 一 般 世 話 役		人		∴	∴	表-119-1	特 殊 作 業 員		人		∴	∴	表-119-1	普 通 作 業 員		人		∴	∴	表-119-1	床 板 材		m ³		∴	∴	必要数量を計上	門 型 ク レ ーン 運 転 費		日		∴	∴	表-119-1	諸 雑 費		式	1	∴	∴	諸雑費	計				∴	∴		文字の訂正
種 目	形 状 寸 法	単 位	数 量	単 価 (円)	金 額 (円)	摘 要																																																					
土 木 一 般 世 話 役		人		∴	∴	表-119-1																																																					
特 殊 作 業 員		人		∴	∴	表-119-1																																																					
普 通 作 業 員		人		∴	∴	表-119-1																																																					
床 板 材		m ³		∴	∴	必要数量を計上																																																					
門 型 ク レ ーン 運 転 費		日		∴	∴	表-119-1																																																					
諸 雑 費		式	1	∴	∴	諸雑費																																																					
計				∴	∴																																																						
正																																																											
<p>LD-119-1 推進用機器据付撤去工（泥水式・泥濃式推進） 施工単価コード DG D20770 (1箇所当り)</p> <table border="1" data-bbox="645 975 1794 1241"> <thead> <tr> <th>種 目</th> <th>形 状 寸 法</th> <th>単 位</th> <th>数 量</th> <th>単 価 (円)</th> <th>金 額 (円)</th> <th>摘 要</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>土 木 一 般 世 話 役</td> <td></td> <td>人</td> <td></td> <td>∴</td> <td>∴</td> <td>表-119-1</td> </tr> <tr> <td>特 殊 作 業 員</td> <td></td> <td>人</td> <td></td> <td>∴</td> <td>∴</td> <td>表-119-1</td> </tr> <tr> <td>普 通 作 業 員</td> <td></td> <td>人</td> <td></td> <td>∴</td> <td>∴</td> <td>表-119-1</td> </tr> <tr> <td>床 板 材</td> <td></td> <td>m³</td> <td></td> <td>∴</td> <td>∴</td> <td>必要数量を計上</td> </tr> <tr> <td>門 型 ク レ ーン 運 転 費</td> <td></td> <td>日</td> <td></td> <td>∴</td> <td>∴</td> <td>表-119-1</td> </tr> <tr> <td>諸 雑 費</td> <td></td> <td>式</td> <td>1</td> <td>∴</td> <td>∴</td> <td>端数処理</td> </tr> <tr> <td>計</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>∴</td> <td>∴</td> <td></td> </tr> </tbody> </table>				種 目	形 状 寸 法	単 位	数 量	単 価 (円)	金 額 (円)	摘 要	土 木 一 般 世 話 役		人		∴	∴	表-119-1	特 殊 作 業 員		人		∴	∴	表-119-1	普 通 作 業 員		人		∴	∴	表-119-1	床 板 材		m ³		∴	∴	必要数量を計上	門 型 ク レ ーン 運 転 費		日		∴	∴	表-119-1	諸 雑 費		式	1	∴	∴	端数処理	計				∴	∴	
種 目	形 状 寸 法	単 位	数 量	単 価 (円)	金 額 (円)	摘 要																																																					
土 木 一 般 世 話 役		人		∴	∴	表-119-1																																																					
特 殊 作 業 員		人		∴	∴	表-119-1																																																					
普 通 作 業 員		人		∴	∴	表-119-1																																																					
床 板 材		m ³		∴	∴	必要数量を計上																																																					
門 型 ク レ ーン 運 転 費		日		∴	∴	表-119-1																																																					
諸 雑 費		式	1	∴	∴	端数処理																																																					
計				∴	∴																																																						

平成27年10月 土木工事積算基準等正誤表

区分	頁・行	誤	備考																											
下水編	建築 6 (662)	<p>(B) 硬質塩化ビニル板製長方形ダクト (ビニル・B) [低圧・高圧1ダクト、1000 (Pa)以下] (出来上り 1 m² 当り)</p> <table border="1" data-bbox="640 368 1794 448"> <thead> <tr> <th rowspan="2">名称</th> <th rowspan="2">規格寸法等</th> <th rowspan="2">単位</th> <th colspan="5">板厚 (mm)</th> </tr> <tr> <th>3</th> <th>4</th> <th>5</th> <th>5</th> <th>6</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td colspan="7" style="text-align: center;">～中略～</td> </tr> <tr> <td colspan="3">その他</td> <td colspan="4">一式</td> </tr> </tbody> </table> <p>(注) 鋼材防錆塗装は、上記歩掛×0.94倍して計上する。塗装工は上記歩掛×0.09倍して計上する。 備考 ビニル Aダクト：ダクト仕様は、補強鋼板・つり金物・ボルトナット等が普通鋼材製のもの。</p>	名称	規格寸法等	単位	板厚 (mm)					3	4	5	5	6	～中略～							その他			一式				文字の訂正
名称	規格寸法等	単位				板厚 (mm)																								
			3	4	5	5	6																							
～中略～																														
その他			一式																											
正																														
		<p>(B) 硬質塩化ビニル板製長方形ダクト (ビニル・B) [低圧・高圧1ダクト、1000 (Pa)以下] (出来上り 1 m² 当り)</p> <table border="1" data-bbox="640 986 1794 1066"> <thead> <tr> <th rowspan="2">名称</th> <th rowspan="2">規格寸法等</th> <th rowspan="2">単位</th> <th colspan="5">板厚 (mm)</th> </tr> <tr> <th>3</th> <th>4</th> <th>5</th> <th>5</th> <th>6</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td colspan="7" style="text-align: center;">～中略～</td> </tr> <tr> <td colspan="3">その他</td> <td colspan="4">一式</td> </tr> </tbody> </table> <p>(注) 鋼材防錆塗装は、上記歩掛×0.94倍して計上する。塗装工は上記歩掛×0.09倍して計上する。 備考 ビニル Bダクト：ダクト仕様は、補強鋼板・つり金物・ボルトナット等が普通鋼材製のもの。</p>	名称	規格寸法等	単位	板厚 (mm)					3	4	5	5	6	～中略～							その他			一式				
名称	規格寸法等	単位				板厚 (mm)																								
			3	4	5	5	6																							
～中略～																														
その他			一式																											

区分	頁・行	誤	備考																				
下水編	建築 7 (663)	<p>(9) 硬質塩化ビニル板製長方形ダクト (ビニル・B) [高圧2ダクト、1000(Pa)~1500(Pa) 以下] (出来上り 1m² 当り)</p> <table border="1" data-bbox="640 360 1794 451"> <thead> <tr> <th rowspan="2">名称</th> <th rowspan="2">規格寸法等</th> <th rowspan="2">単位</th> <th colspan="4">板厚 (mm)</th> </tr> <tr> <th>3</th> <th>5</th> <th>5</th> <th>6</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td>501...</td> <td>1,001...</td> <td>1,501...</td> <td>2,001...</td> </tr> </tbody> </table> <p style="text-align: center;">～中略～</p> <table border="1" data-bbox="640 539 1794 576"> <tr> <td>その他の</td> <td>一式</td> </tr> </table> <p>(注) 鋼材防錆塗装は、上記歩掛×0.94倍して計上する。塗装工は上記歩掛×0.09倍して計上する。 備考 ビニルAダクト：ダクト仕様は、補強鋼板・つり金物・ボルトナット等が普通鋼材製のもの。</p>	名称	規格寸法等	単位	板厚 (mm)				3	5	5	6				501...	1,001...	1,501...	2,001...	その他の	一式	文字の訂正
名称	規格寸法等	単位				板厚 (mm)																	
			3	5	5	6																	
			501...	1,001...	1,501...	2,001...																	
その他の	一式																						
正																							
		<p>(9) 硬質塩化ビニル板製長方形ダクト (ビニル・B) [高圧2ダクト、1000(Pa)~1500(Pa) 以下] (出来上り 1m² 当り)</p> <table border="1" data-bbox="640 970 1794 1061"> <thead> <tr> <th rowspan="2">名称</th> <th rowspan="2">規格寸法等</th> <th rowspan="2">単位</th> <th colspan="4">板厚 (mm)</th> </tr> <tr> <th>3</th> <th>5</th> <th>5</th> <th>6</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td>501...</td> <td>1,001...</td> <td>1,501...</td> <td>2,001...</td> </tr> </tbody> </table> <p style="text-align: center;">～中略～</p> <table border="1" data-bbox="640 1149 1794 1185"> <tr> <td>その他の</td> <td>一式</td> </tr> </table> <p>(注) 鋼材防錆塗装は、上記歩掛×0.94倍して計上する。塗装工は上記歩掛×0.09倍して計上する。 備考 ビニルBダクト：ダクト仕様は、補強鋼板・つり金物・ボルトナット等が普通鋼材製のもの。</p>	名称	規格寸法等	単位	板厚 (mm)				3	5	5	6				501...	1,001...	1,501...	2,001...	その他の	一式	
名称	規格寸法等	単位				板厚 (mm)																	
			3	5	5	6																	
			501...	1,001...	1,501...	2,001...																	
その他の	一式																						

平成27年10月 土木工事積算基準等正誤表

区分	頁・行	誤	備考																							
下水編	建築 7 (663)	<p>(10) 硬質塩化ビニル板製長方形ダクト (ビニル・B) [低圧・高圧2ダクト、1500 (Pa)を超え2000(Pa)以下] (出来上り 1 m² 当り)</p> <table border="1" data-bbox="640 352 1789 435"> <thead> <tr> <th rowspan="2">名称</th> <th rowspan="2">規格寸法等</th> <th rowspan="2">単位</th> <th colspan="5">板厚 (mm)</th> </tr> <tr> <th>4</th> <th>5</th> <th>5</th> <th>5</th> <th>6</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td>1.000</td> <td>1.000</td> <td>1.000</td> <td>1.000</td> <td>1.000</td> </tr> </tbody> </table> <p>～中略～</p> <table border="1" data-bbox="640 552 1794 587"> <tr> <td>そ の 他</td> <td>一 式</td> </tr> </table> <p>(注) 鋼材防錆塗装は、上記歩掛×0.94倍して計上する。塗装工は上記歩掛×0.03倍して計上する。 備考 ビニル Aダクト：ダクト仕様は、補強鋼板・つり金物・ボルトナット等が普通鋼材製のもの。</p>	名称	規格寸法等	単位	板厚 (mm)					4	5	5	5	6				1.000	1.000	1.000	1.000	1.000	そ の 他	一 式	文字の訂正
名称	規格寸法等	単位				板厚 (mm)																				
			4	5	5	5	6																			
			1.000	1.000	1.000	1.000	1.000																			
そ の 他	一 式																									
正																										
		<p>(10) 硬質塩化ビニル板製長方形ダクト (ビニル・B) [低圧・高圧2ダクト、1500 (Pa)を超え2000(Pa)以下] (出来上り 1 m² 当り)</p> <table border="1" data-bbox="640 976 1789 1059"> <thead> <tr> <th rowspan="2">名称</th> <th rowspan="2">規格寸法等</th> <th rowspan="2">単位</th> <th colspan="5">板厚 (mm)</th> </tr> <tr> <th>4</th> <th>5</th> <th>5</th> <th>5</th> <th>6</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td>1.000</td> <td>1.000</td> <td>1.000</td> <td>1.000</td> <td>1.000</td> </tr> </tbody> </table> <p>～中略～</p> <table border="1" data-bbox="640 1160 1794 1195"> <tr> <td>そ の 他</td> <td>一 式</td> </tr> </table> <p>(注) 鋼材防錆塗装は、上記歩掛×0.94倍して計上する。塗装工は上記歩掛×0.03倍して計上する。 備考 ビニル Bダクト：ダクト仕様は、補強鋼板・つり金物・ボルトナット等が普通鋼材製のもの。</p>	名称	規格寸法等	単位	板厚 (mm)					4	5	5	5	6				1.000	1.000	1.000	1.000	1.000	そ の 他	一 式	
名称	規格寸法等	単位				板厚 (mm)																				
			4	5	5	5	6																			
			1.000	1.000	1.000	1.000	1.000																			
そ の 他	一 式																									

平成27年10月 土木工事積算基準等正誤表

区分	頁・行	誤	備考																																																								
下水編	施設設計 21 (825)	<p style="text-align: center;">表-I-13 特殊マンホール基準歩掛 (1箇所当り)(単位:人)</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th>作業項目</th> <th>技師長</th> <th>主任技師</th> <th>技師(A)</th> <th>技師(B)</th> <th>技師(C)</th> <th>技術員</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>構造計画</td> <td style="text-align: center;">-</td> <td style="text-align: center;">0.5</td> <td style="text-align: center;">-</td> <td style="text-align: center;">-</td> <td style="text-align: center;">-</td> <td style="text-align: center;">-</td> </tr> <tr> <td>各種計算</td> <td style="text-align: center;">-</td> <td style="text-align: center;">-</td> <td style="text-align: center;">0.5</td> <td style="text-align: center;">1.0</td> <td style="text-align: center;">0.5</td> <td style="text-align: center;">-</td> </tr> <tr> <td>耐震設計</td> <td colspan="6" style="text-align: center;">表-17-5による</td> </tr> <tr> <td>設計図作成</td> <td style="text-align: center;">-</td> <td style="text-align: center;">-</td> <td style="text-align: center;">0.5</td> <td style="text-align: center;">1.5</td> <td style="text-align: center;">1.0</td> <td style="text-align: center;">0.5</td> </tr> <tr> <td>数量計算</td> <td style="text-align: center;">-</td> <td style="text-align: center;">-</td> <td style="text-align: center;">0.5</td> <td style="text-align: center;">1.0</td> <td style="text-align: center;">0.5</td> <td style="text-align: center;">-</td> </tr> <tr> <td>照査</td> <td style="text-align: center;">-</td> <td style="text-align: center;">0.5</td> <td style="text-align: center;">-</td> <td style="text-align: center;">-</td> <td style="text-align: center;">-</td> <td style="text-align: center;">-</td> </tr> <tr> <td>計</td> <td style="text-align: center;">-</td> <td style="text-align: center;">1.0</td> <td style="text-align: center;">1.5</td> <td style="text-align: center;">3.5</td> <td style="text-align: center;">2.0</td> <td style="text-align: center;">0.5</td> </tr> </tbody> </table> <p>(注) 1 <u>地形測量、地質調査は別途計上とする。</u>本歩掛は管路の設計に付随して適用するものであり、マンホール単独で発注する場合は、設計協議を計上する。 2 <u>測量、地質調査は別途計上する。</u> ~以下省略~</p>	作業項目	技師長	主任技師	技師(A)	技師(B)	技師(C)	技術員	構造計画	-	0.5	-	-	-	-	各種計算	-	-	0.5	1.0	0.5	-	耐震設計	表-17-5による						設計図作成	-	-	0.5	1.5	1.0	0.5	数量計算	-	-	0.5	1.0	0.5	-	照査	-	0.5	-	-	-	-	計	-	1.0	1.5	3.5	2.0	0.5	注意書きの訂正
作業項目	技師長	主任技師	技師(A)	技師(B)	技師(C)	技術員																																																					
構造計画	-	0.5	-	-	-	-																																																					
各種計算	-	-	0.5	1.0	0.5	-																																																					
耐震設計	表-17-5による																																																										
設計図作成	-	-	0.5	1.5	1.0	0.5																																																					
数量計算	-	-	0.5	1.0	0.5	-																																																					
照査	-	0.5	-	-	-	-																																																					
計	-	1.0	1.5	3.5	2.0	0.5																																																					
		正																																																									
		<p style="text-align: center;">表-I-13 特殊マンホール基準歩掛 (1箇所当り)(単位:人)</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th>作業項目</th> <th>技師長</th> <th>主任技師</th> <th>技師(A)</th> <th>技師(B)</th> <th>技師(C)</th> <th>技術員</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>構造計画</td> <td style="text-align: center;">-</td> <td style="text-align: center;">0.5</td> <td style="text-align: center;">-</td> <td style="text-align: center;">-</td> <td style="text-align: center;">-</td> <td style="text-align: center;">-</td> </tr> <tr> <td>各種計算</td> <td style="text-align: center;">-</td> <td style="text-align: center;">-</td> <td style="text-align: center;">0.5</td> <td style="text-align: center;">1.0</td> <td style="text-align: center;">0.5</td> <td style="text-align: center;">-</td> </tr> <tr> <td>耐震設計</td> <td colspan="6" style="text-align: center;">表-17-5による</td> </tr> <tr> <td>設計図作成</td> <td style="text-align: center;">-</td> <td style="text-align: center;">-</td> <td style="text-align: center;">0.5</td> <td style="text-align: center;">1.5</td> <td style="text-align: center;">1.0</td> <td style="text-align: center;">0.5</td> </tr> <tr> <td>数量計算</td> <td style="text-align: center;">-</td> <td style="text-align: center;">-</td> <td style="text-align: center;">0.5</td> <td style="text-align: center;">1.0</td> <td style="text-align: center;">0.5</td> <td style="text-align: center;">-</td> </tr> <tr> <td>照査</td> <td style="text-align: center;">-</td> <td style="text-align: center;">0.5</td> <td style="text-align: center;">-</td> <td style="text-align: center;">-</td> <td style="text-align: center;">-</td> <td style="text-align: center;">-</td> </tr> <tr> <td>計</td> <td style="text-align: center;">-</td> <td style="text-align: center;">1.0</td> <td style="text-align: center;">1.5</td> <td style="text-align: center;">3.5</td> <td style="text-align: center;">2.0</td> <td style="text-align: center;">0.5</td> </tr> </tbody> </table> <p>(注) 1 <u>地形測量、地質調査は別途計上とする。</u>本歩掛は管路の設計に付随して適用するものであり、マンホール単独で発注する場合は、設計協議を計上する。 2 <u>地形測量、地質調査は別途計上する。</u> ~以下省略~</p>	作業項目	技師長	主任技師	技師(A)	技師(B)	技師(C)	技術員	構造計画	-	0.5	-	-	-	-	各種計算	-	-	0.5	1.0	0.5	-	耐震設計	表-17-5による						設計図作成	-	-	0.5	1.5	1.0	0.5	数量計算	-	-	0.5	1.0	0.5	-	照査	-	0.5	-	-	-	-	計	-	1.0	1.5	3.5	2.0	0.5	
作業項目	技師長	主任技師	技師(A)	技師(B)	技師(C)	技術員																																																					
構造計画	-	0.5	-	-	-	-																																																					
各種計算	-	-	0.5	1.0	0.5	-																																																					
耐震設計	表-17-5による																																																										
設計図作成	-	-	0.5	1.5	1.0	0.5																																																					
数量計算	-	-	0.5	1.0	0.5	-																																																					
照査	-	0.5	-	-	-	-																																																					
計	-	1.0	1.5	3.5	2.0	0.5																																																					

区分	頁・行	誤	備考																																																																																				
下水編	施設設計 25 (829)	<p style="text-align: center;">表-I-17-1 管路施設耐震設計業務基準歩掛 (1業務当り)(単位:人)</p> <table border="1" style="margin-left: auto; margin-right: auto;"> <thead> <tr> <th>作業項目</th> <th>技師長</th> <th>主任技師</th> <th>技師(A)</th> <th>技師(B)</th> <th>技師(C)</th> <th>技術員</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>調査</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>0.5</td> <td>0.5</td> <td>-</td> <td>-</td> </tr> <tr> <td>条件設定</td> <td>-</td> <td>0.5</td> <td>1.0</td> <td>0.5</td> <td>-</td> <td>-</td> </tr> <tr> <td>耐震計算</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>0.5</td> <td>1.5</td> <td>1.0</td> <td>1.0</td> </tr> <tr> <td>照査</td> <td>-</td> <td>0.5</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>-</td> </tr> <tr> <td>計</td> <td>-</td> <td>1.0</td> <td>2.0</td> <td>2.5</td> <td>1.0</td> <td>1.0</td> </tr> </tbody> </table> <p style="text-align: center;">正</p> <p style="text-align: center;">表-I-17-1 管路施設耐震設計業務基準歩掛 (単位:人)</p> <table border="1" style="margin-left: auto; margin-right: auto;"> <thead> <tr> <th>作業項目</th> <th>技師長</th> <th>主任技師</th> <th>技師(A)</th> <th>技師(B)</th> <th>技師(C)</th> <th>技術員</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>調査</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>0.5</td> <td>0.5</td> <td>-</td> <td>-</td> </tr> <tr> <td>条件設定</td> <td>-</td> <td>0.5</td> <td>1.0</td> <td>0.5</td> <td>-</td> <td>-</td> </tr> <tr> <td>耐震計算</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>0.5</td> <td>1.5</td> <td>1.0</td> <td>1.0</td> </tr> <tr> <td>照査</td> <td>-</td> <td>0.5</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>-</td> </tr> <tr> <td>計</td> <td>-</td> <td>1.0</td> <td>2.0</td> <td>2.5</td> <td>1.0</td> <td>1.0</td> </tr> </tbody> </table>	作業項目	技師長	主任技師	技師(A)	技師(B)	技師(C)	技術員	調査	-	-	0.5	0.5	-	-	条件設定	-	0.5	1.0	0.5	-	-	耐震計算	-	-	0.5	1.5	1.0	1.0	照査	-	0.5	-	-	-	-	計	-	1.0	2.0	2.5	1.0	1.0	作業項目	技師長	主任技師	技師(A)	技師(B)	技師(C)	技術員	調査	-	-	0.5	0.5	-	-	条件設定	-	0.5	1.0	0.5	-	-	耐震計算	-	-	0.5	1.5	1.0	1.0	照査	-	0.5	-	-	-	-	計	-	1.0	2.0	2.5	1.0	1.0	文字の削除
作業項目	技師長	主任技師	技師(A)	技師(B)	技師(C)	技術員																																																																																	
調査	-	-	0.5	0.5	-	-																																																																																	
条件設定	-	0.5	1.0	0.5	-	-																																																																																	
耐震計算	-	-	0.5	1.5	1.0	1.0																																																																																	
照査	-	0.5	-	-	-	-																																																																																	
計	-	1.0	2.0	2.5	1.0	1.0																																																																																	
作業項目	技師長	主任技師	技師(A)	技師(B)	技師(C)	技術員																																																																																	
調査	-	-	0.5	0.5	-	-																																																																																	
条件設定	-	0.5	1.0	0.5	-	-																																																																																	
耐震計算	-	-	0.5	1.5	1.0	1.0																																																																																	
照査	-	0.5	-	-	-	-																																																																																	
計	-	1.0	2.0	2.5	1.0	1.0																																																																																	

平成27年10月 土木工事積算基準等正誤表

区分	頁・行	誤	備考																																																						
下水編	施設設計 25 (829)	<p>(レベル1地震動に対する耐震計算を行う場合)</p> <p>本歩掛は、管路施設の耐震設計を行う場合に適用し、本体設計に付加して計上するものとする。</p> <p>表-I-17-2 管路施設耐震設計業務基準歩掛(管更生工法) (単位:人)</p> <table border="1" data-bbox="855 363 1628 571"> <thead> <tr> <th>作業項目</th> <th>技師長</th> <th>主任技師</th> <th>技師(A)</th> <th>技師(B)</th> <th>技師(C)</th> <th>技術員</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>調査</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>0.5</td> <td>0.5</td> <td>-</td> <td>-</td> </tr> <tr> <td>条件設定</td> <td>-</td> <td>0.5</td> <td>0.5</td> <td>0.5</td> <td>-</td> <td>-</td> </tr> <tr> <td>耐震計算</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>0.5</td> <td>1.5</td> <td>1.0</td> <td>1.0</td> </tr> <tr> <td>照査</td> <td>-</td> <td>0.5</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>-</td> </tr> <tr> <td>計</td> <td>-</td> <td>1.0</td> <td>1.5</td> <td>2.5</td> <td>1.0</td> <td>1.0</td> </tr> </tbody> </table> <p>(注) 1 基準延長は本体設計と同様とし、延長の補正も同様のものを使用する。 2 管種・管径による補正は次表のとおりとする。</p> <table border="1" data-bbox="855 639 1628 778"> <thead> <tr> <th>工法</th> <th>補正率</th> <th>工法</th> <th>補正率</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>円形管(800mm未満)</td> <td>1.00</td> <td>ボックスカルバート (短辺内径800mm未満)</td> <td>1.40</td> </tr> <tr> <td>円形管(800mm以上)</td> <td><u>1.00</u></td> <td>ボックスカルバート (短辺内径800mm以上)</td> <td>1.50</td> </tr> </tbody> </table>	作業項目	技師長	主任技師	技師(A)	技師(B)	技師(C)	技術員	調査	-	-	0.5	0.5	-	-	条件設定	-	0.5	0.5	0.5	-	-	耐震計算	-	-	0.5	1.5	1.0	1.0	照査	-	0.5	-	-	-	-	計	-	1.0	1.5	2.5	1.0	1.0	工法	補正率	工法	補正率	円形管(800mm未満)	1.00	ボックスカルバート (短辺内径800mm未満)	1.40	円形管(800mm以上)	<u>1.00</u>	ボックスカルバート (短辺内径800mm以上)	1.50	補正率 の訂正
作業項目	技師長	主任技師	技師(A)	技師(B)	技師(C)	技術員																																																			
調査	-	-	0.5	0.5	-	-																																																			
条件設定	-	0.5	0.5	0.5	-	-																																																			
耐震計算	-	-	0.5	1.5	1.0	1.0																																																			
照査	-	0.5	-	-	-	-																																																			
計	-	1.0	1.5	2.5	1.0	1.0																																																			
工法	補正率	工法	補正率																																																						
円形管(800mm未満)	1.00	ボックスカルバート (短辺内径800mm未満)	1.40																																																						
円形管(800mm以上)	<u>1.00</u>	ボックスカルバート (短辺内径800mm以上)	1.50																																																						
正																																																									
<p>(レベル1地震動に対する耐震計算を行う場合)</p> <p>本歩掛は、管路施設の耐震設計を行う場合に適用し、本体設計に付加して計上するものとする。</p> <p>表-I-17-2 管路施設耐震設計業務基準歩掛(管更生工法) (単位:人)</p> <table border="1" data-bbox="855 994 1628 1201"> <thead> <tr> <th>作業項目</th> <th>技師長</th> <th>主任技師</th> <th>技師(A)</th> <th>技師(B)</th> <th>技師(C)</th> <th>技術員</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>調査</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>0.5</td> <td>0.5</td> <td>-</td> <td>-</td> </tr> <tr> <td>条件設定</td> <td>-</td> <td>0.5</td> <td>0.5</td> <td>0.5</td> <td>-</td> <td>-</td> </tr> <tr> <td>耐震計算</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>0.5</td> <td>1.5</td> <td>1.0</td> <td>1.0</td> </tr> <tr> <td>照査</td> <td>-</td> <td>0.5</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>-</td> </tr> <tr> <td>計</td> <td>-</td> <td>1.0</td> <td>1.5</td> <td>2.5</td> <td>1.0</td> <td>1.0</td> </tr> </tbody> </table> <p>(注) 1 基準延長は本体設計と同様とし、延長の補正も同様のものを使用する。 2 管種・管径による補正は次表のとおりとする。</p> <table border="1" data-bbox="855 1270 1628 1409"> <thead> <tr> <th>工法</th> <th>補正率</th> <th>工法</th> <th>補正率</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>円形管(800mm未満)</td> <td>1.00</td> <td>ボックスカルバート (短辺内径800mm未満)</td> <td>1.40</td> </tr> <tr> <td>円形管(800mm以上)</td> <td><u>1.10</u></td> <td>ボックスカルバート (短辺内径800mm以上)</td> <td>1.50</td> </tr> </tbody> </table>				作業項目	技師長	主任技師	技師(A)	技師(B)	技師(C)	技術員	調査	-	-	0.5	0.5	-	-	条件設定	-	0.5	0.5	0.5	-	-	耐震計算	-	-	0.5	1.5	1.0	1.0	照査	-	0.5	-	-	-	-	計	-	1.0	1.5	2.5	1.0	1.0	工法	補正率	工法	補正率	円形管(800mm未満)	1.00	ボックスカルバート (短辺内径800mm未満)	1.40	円形管(800mm以上)	<u>1.10</u>	ボックスカルバート (短辺内径800mm以上)	1.50
作業項目	技師長	主任技師	技師(A)	技師(B)	技師(C)	技術員																																																			
調査	-	-	0.5	0.5	-	-																																																			
条件設定	-	0.5	0.5	0.5	-	-																																																			
耐震計算	-	-	0.5	1.5	1.0	1.0																																																			
照査	-	0.5	-	-	-	-																																																			
計	-	1.0	1.5	2.5	1.0	1.0																																																			
工法	補正率	工法	補正率																																																						
円形管(800mm未満)	1.00	ボックスカルバート (短辺内径800mm未満)	1.40																																																						
円形管(800mm以上)	<u>1.10</u>	ボックスカルバート (短辺内径800mm以上)	1.50																																																						

平成27年10月 土木工事積算基準等正誤表

区分	頁・行	誤	備考																																										
下水編	施設設計 26 (830)	<p style="text-align: center;">表-I-17-3 管渠施設耐震設計業務基準歩掛 <u>(1業務当り)</u>(単位:人)</p> <table border="1" style="margin-left: auto; margin-right: auto;"> <thead> <tr> <th>作業項目</th> <th>技師長</th> <th>主任技師</th> <th>技師(A)</th> <th>技師(B)</th> <th>技師(C)</th> <th>技術員</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>調査</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>0.5</td> <td>0.5</td> <td>-</td> <td>-</td> </tr> <tr> <td>条件設定</td> <td>-</td> <td>0.5</td> <td>1.0</td> <td>0.5</td> <td>0.5</td> <td>-</td> </tr> <tr> <td>耐震計算</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>1.0</td> <td>2.5</td> <td>2.0</td> <td>1.0</td> </tr> <tr> <td>照査</td> <td>-</td> <td>1.0</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>-</td> </tr> <tr> <td>計</td> <td>-</td> <td>1.5</td> <td>2.5</td> <td>3.5</td> <td>2.5</td> <td>1.0</td> </tr> </tbody> </table>	作業項目	技師長	主任技師	技師(A)	技師(B)	技師(C)	技術員	調査	-	-	0.5	0.5	-	-	条件設定	-	0.5	1.0	0.5	0.5	-	耐震計算	-	-	1.0	2.5	2.0	1.0	照査	-	1.0	-	-	-	-	計	-	1.5	2.5	3.5	2.5	1.0	文字の削除
作業項目	技師長	主任技師	技師(A)	技師(B)	技師(C)	技術員																																							
調査	-	-	0.5	0.5	-	-																																							
条件設定	-	0.5	1.0	0.5	0.5	-																																							
耐震計算	-	-	1.0	2.5	2.0	1.0																																							
照査	-	1.0	-	-	-	-																																							
計	-	1.5	2.5	3.5	2.5	1.0																																							
正																																													
<p style="text-align: center;">表-I-17-3 管渠施設耐震設計業務基準歩掛 <u>(1業務当り)</u>(単位:人)</p> <table border="1" style="margin-left: auto; margin-right: auto;"> <thead> <tr> <th>作業項目</th> <th>技師長</th> <th>主任技師</th> <th>技師(A)</th> <th>技師(B)</th> <th>技師(C)</th> <th>技術員</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>調査</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>0.5</td> <td>0.5</td> <td>-</td> <td>-</td> </tr> <tr> <td>条件設定</td> <td>-</td> <td>0.5</td> <td>1.0</td> <td>0.5</td> <td>0.5</td> <td>-</td> </tr> <tr> <td>耐震計算</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>1.0</td> <td>2.5</td> <td>2.0</td> <td>1.0</td> </tr> <tr> <td>照査</td> <td>-</td> <td>1.0</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>-</td> </tr> <tr> <td>計</td> <td>-</td> <td>1.5</td> <td>2.5</td> <td>3.5</td> <td>2.5</td> <td>1.0</td> </tr> </tbody> </table>			作業項目	技師長	主任技師	技師(A)	技師(B)	技師(C)	技術員	調査	-	-	0.5	0.5	-	-	条件設定	-	0.5	1.0	0.5	0.5	-	耐震計算	-	-	1.0	2.5	2.0	1.0	照査	-	1.0	-	-	-	-	計	-	1.5	2.5	3.5	2.5	1.0	
作業項目	技師長	主任技師	技師(A)	技師(B)	技師(C)	技術員																																							
調査	-	-	0.5	0.5	-	-																																							
条件設定	-	0.5	1.0	0.5	0.5	-																																							
耐震計算	-	-	1.0	2.5	2.0	1.0																																							
照査	-	1.0	-	-	-	-																																							
計	-	1.5	2.5	3.5	2.5	1.0																																							

平成27年10月 土木工事積算基準等正誤表

区分	頁・行	誤	備考
下水編	施設設計 33 (837)	<p>a) 管路延長補正</p> <p>管路延長による補正は、表-I-7～表-I-12及び表-I-21～表-I-24の各歩掛に、次の各工法ごとの該当する補正率を乗じたものとする。</p> <p>なお、開削工法.....において、管径1,200mm未満、1,200mm以上の2種類の管径を含む場合は、.....総管路延長に対する補正率を求め、「当該管路延長(m)／総管路延長(m)」を乗じた値をそれぞれの補正率とする。また、開削工法、推進工法、シールド工法.....のうち、2種以上を含む場合は、各工法ごとの管渠延長による補正率を表-I-7～表-I-12及び表-I-21～表-I-24の基準歩掛にそれぞれ乗じるものとする。</p>	文字の追加・訂正
		正	
		<p>a) 管路延長補正</p> <p>管路延長による補正は、表-I-7～表-I-12及び表-I-21～表-I-24の各歩掛に、次の各工法ごとの該当する補正率を乗じたものとする。</p> <p>なお、開削工法及び布設替え工法において、内径1,200mm未満、1,200mm以上の2種類の管径を含む場合及び、管更生工法において、内径800mm未満、800mm以上の2種類の管径を含む場合は、総管路延長に対する補正率を求め、「当該管路延長(m)／総管路延長(m)」を乗じた値をそれぞれの補正率とする。また、開削工法、推進工法、シールド工法、布設替え工法、管更生工法のうち、2種以上を含む場合は、各工法ごとの管渠延長による補正率を表-I-7～表-I-12及び表-I-21～表-I-24の基準歩掛にそれぞれ乗じるものとする。</p>	

区分	頁・行	誤	備考																																								
下水編	施設設計 130 (934)	<p>(ロ) 管路施設耐震診断調査業務 (詳細診断)</p> <table border="1" data-bbox="689 316 1787 421"> <thead> <tr> <th rowspan="2">作業項目</th> <th colspan="2">作業内容</th> </tr> <tr> <th>区分</th> <th>作業の範囲</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1. 基礎調査</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td colspan="3" style="text-align: center;">～中略～</td> </tr> <tr> <td>5. 耐震補強対策の検討</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>5-1 耐震対策の概略 検討</td> <td>補強方法・補強構造の選定</td> <td> <div style="border: 1px solid red; padding: 2px;"> 屈曲角、拔出し、耐力(強度)、液状化時の浮上・沈下等に対する耐震補強方法・耐震補強構造の立案と概略比較による選定 </div> </td> </tr> <tr> <td colspan="3" style="text-align: center;">～以下省略～</td> </tr> </tbody> </table> <p style="text-align: center;">正</p> <p>(ロ) 管路施設耐震診断調査業務 (詳細診断)</p> <table border="1" data-bbox="703 938 1800 1043"> <thead> <tr> <th rowspan="2">作業項目</th> <th colspan="2">作業内容</th> </tr> <tr> <th>区分</th> <th>作業の範囲</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1. 基礎調査</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td colspan="3" style="text-align: center;">～中略～</td> </tr> <tr> <td>5. 耐震補強対策の検討</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>5-1 耐震対策の概略 検討</td> <td>補強方法・補強構造の選定</td> <td> <div style="border: 1px solid red; padding: 2px;"> 基礎調査と耐震計算の結果に基づいた耐震補強対策の概略比較検討 屈曲角、拔出し、耐力(強度)、液状化時の浮上・沈下等に対する耐震補強方法・耐震補強構造の立案と概略比較による選定 </div> </td> </tr> <tr> <td colspan="3" style="text-align: center;">～以下省略～</td> </tr> </tbody> </table>	作業項目	作業内容		区分	作業の範囲	1. 基礎調査			～中略～			5. 耐震補強対策の検討			5-1 耐震対策の概略 検討	補強方法・補強構造の選定	<div style="border: 1px solid red; padding: 2px;"> 屈曲角、拔出し、耐力(強度)、液状化時の浮上・沈下等に対する耐震補強方法・耐震補強構造の立案と概略比較による選定 </div>	～以下省略～			作業項目	作業内容		区分	作業の範囲	1. 基礎調査			～中略～			5. 耐震補強対策の検討			5-1 耐震対策の概略 検討	補強方法・補強構造の選定	<div style="border: 1px solid red; padding: 2px;"> 基礎調査と耐震計算の結果に基づいた耐震補強対策の概略比較検討 屈曲角、拔出し、耐力(強度)、液状化時の浮上・沈下等に対する耐震補強方法・耐震補強構造の立案と概略比較による選定 </div>	～以下省略～			作業内容の追加
作業項目	作業内容																																										
	区分	作業の範囲																																									
1. 基礎調査																																											
～中略～																																											
5. 耐震補強対策の検討																																											
5-1 耐震対策の概略 検討	補強方法・補強構造の選定	<div style="border: 1px solid red; padding: 2px;"> 屈曲角、拔出し、耐力(強度)、液状化時の浮上・沈下等に対する耐震補強方法・耐震補強構造の立案と概略比較による選定 </div>																																									
～以下省略～																																											
作業項目	作業内容																																										
	区分	作業の範囲																																									
1. 基礎調査																																											
～中略～																																											
5. 耐震補強対策の検討																																											
5-1 耐震対策の概略 検討	補強方法・補強構造の選定	<div style="border: 1px solid red; padding: 2px;"> 基礎調査と耐震計算の結果に基づいた耐震補強対策の概略比較検討 屈曲角、拔出し、耐力(強度)、液状化時の浮上・沈下等に対する耐震補強方法・耐震補強構造の立案と概略比較による選定 </div>																																									
～以下省略～																																											

平成27年10月 土木工事積算基準等正誤表

区分	頁・行	誤	備考																																														
下水編	施設設計 131 (935)	<p>(ハ) 特殊構造物耐震診断調査業務 (詳細診断)</p> <table border="1" data-bbox="824 292 1641 794"> <thead> <tr> <th rowspan="2">作業項目</th> <th colspan="2">作業内容</th> </tr> <tr> <th>区分</th> <th>作業の範囲</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1. 基礎調査</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>1-1 特殊構造物 情報収集・整理</td> <td>特殊構造物の耐震 計算に必要な資料 収集・整理</td> <td>竣工図書・設計図書・老朽度調査記録等に基づく構造 諸元・地盤諸元の整理</td> </tr> <tr> <td>1-2 現地踏査</td> <td>現場状況の調査</td> <td>土地利用、道路状況</td> </tr> <tr> <td>1-3 現地作業</td> <td>特殊構造物内部の 調査</td> <td><u>マンホール内部(管口を含む)の目視観察、マンホ ール形状・深さの測定</u></td> </tr> <tr> <td>2. 条件設定</td> <td></td> <td>基礎調査で収集した資料等に基づき、耐震計算を実施 するための条件を設定</td> </tr> <tr> <td>3. 耐震計算による性能 の定量的評価</td> <td>詳細診断 (レベル1の場合) (レベル1及び レベル2の場合)</td> <td>基礎調査に基づく耐震計算、特殊構造物の耐震性能の 定量的評価 液状化の判定、<u>浮き上がり及び目地開口量の検討</u>、特 殊構造物と管渠の接続部の計算(地震動による屈曲角 ・拔出し量)、特殊構造物本体の計算 液状化の判定、<u>特 殊構造物と管渠の接続部の計算(地震動による屈曲角 ・拔出し量)</u>、特殊構造物本体の計算</td> </tr> </tbody> </table> <p style="text-align: right;">～以下省略～</p> <p style="text-align: center;">正</p> <p>(ハ) 特殊構造物耐震診断調査業務 (詳細診断)</p> <table border="1" data-bbox="824 911 1641 1414"> <thead> <tr> <th rowspan="2">作業項目</th> <th colspan="2">作業内容</th> </tr> <tr> <th>区分</th> <th>作業の範囲</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1. 基礎調査</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>1-1 特殊構造物 情報収集・整理</td> <td>特殊構造物の耐震 計算に必要な資料 収集・整理</td> <td>竣工図書・設計図書・老朽度調査記録等に基づく構造 諸元・地盤諸元の整理</td> </tr> <tr> <td>1-2 現地踏査</td> <td>現場状況の調査</td> <td>土地利用、道路状況</td> </tr> <tr> <td>1-3 現地作業</td> <td>特殊構造物内部の 調査</td> <td><u>耐震計算を行う特殊構造物内部(接続部を含む)の目 視観察、特殊構造物の形状・深さの測定</u></td> </tr> <tr> <td>2. 条件設定</td> <td></td> <td>基礎調査で収集した資料等に基づき、耐震計算を実施 するための条件を設定</td> </tr> <tr> <td>3. 耐震計算による性能 の定量的評価</td> <td>詳細診断 (レベル1の場合) (レベル1及び レベル2の場合)</td> <td>基礎調査に基づく耐震計算、特殊構造物の耐震性能の 定量的評価 液状化の判定、<u>特 殊構造物と管渠の接続部の計算(地震動による屈曲角 ・拔出し量)</u>、特殊構造物本体の計算 液状化の判定、<u>浮き上がり及び目地開口量の検討</u>、特 殊構造物と管渠の接続部の計算(地震動による屈曲角 ・拔出し量)、特殊構造物本体の計算</td> </tr> </tbody> </table> <p style="text-align: right;">～以下省略～</p>	作業項目	作業内容		区分	作業の範囲	1. 基礎調査			1-1 特殊構造物 情報収集・整理	特殊構造物の耐震 計算に必要な資料 収集・整理	竣工図書・設計図書・老朽度調査記録等に基づく構造 諸元・地盤諸元の整理	1-2 現地踏査	現場状況の調査	土地利用、道路状況	1-3 現地作業	特殊構造物内部の 調査	<u>マンホール内部(管口を含む)の目視観察、マンホ ール形状・深さの測定</u>	2. 条件設定		基礎調査で収集した資料等に基づき、耐震計算を実施 するための条件を設定	3. 耐震計算による性能 の定量的評価	詳細診断 (レベル1の場合) (レベル1及び レベル2の場合)	基礎調査に基づく耐震計算、特殊構造物の耐震性能の 定量的評価 液状化の判定、 <u>浮き上がり及び目地開口量の検討</u> 、特 殊構造物と管渠の接続部の計算(地震動による屈曲角 ・拔出し量)、特殊構造物本体の計算 液状化の判定、 <u>特 殊構造物と管渠の接続部の計算(地震動による屈曲角 ・拔出し量)</u> 、特殊構造物本体の計算	作業項目	作業内容		区分	作業の範囲	1. 基礎調査			1-1 特殊構造物 情報収集・整理	特殊構造物の耐震 計算に必要な資料 収集・整理	竣工図書・設計図書・老朽度調査記録等に基づく構造 諸元・地盤諸元の整理	1-2 現地踏査	現場状況の調査	土地利用、道路状況	1-3 現地作業	特殊構造物内部の 調査	<u>耐震計算を行う特殊構造物内部(接続部を含む)の目 視観察、特殊構造物の形状・深さの測定</u>	2. 条件設定		基礎調査で収集した資料等に基づき、耐震計算を実施 するための条件を設定	3. 耐震計算による性能 の定量的評価	詳細診断 (レベル1の場合) (レベル1及び レベル2の場合)	基礎調査に基づく耐震計算、特殊構造物の耐震性能の 定量的評価 液状化の判定、 <u>特 殊構造物と管渠の接続部の計算(地震動による屈曲角 ・拔出し量)</u> 、特殊構造物本体の計算 液状化の判定、 <u>浮き上がり及び目地開口量の検討</u> 、特 殊構造物と管渠の接続部の計算(地震動による屈曲角 ・拔出し量)、特殊構造物本体の計算	作業内容の訂正
作業項目	作業内容																																																
	区分	作業の範囲																																															
1. 基礎調査																																																	
1-1 特殊構造物 情報収集・整理	特殊構造物の耐震 計算に必要な資料 収集・整理	竣工図書・設計図書・老朽度調査記録等に基づく構造 諸元・地盤諸元の整理																																															
1-2 現地踏査	現場状況の調査	土地利用、道路状況																																															
1-3 現地作業	特殊構造物内部の 調査	<u>マンホール内部(管口を含む)の目視観察、マンホ ール形状・深さの測定</u>																																															
2. 条件設定		基礎調査で収集した資料等に基づき、耐震計算を実施 するための条件を設定																																															
3. 耐震計算による性能 の定量的評価	詳細診断 (レベル1の場合) (レベル1及び レベル2の場合)	基礎調査に基づく耐震計算、特殊構造物の耐震性能の 定量的評価 液状化の判定、 <u>浮き上がり及び目地開口量の検討</u> 、特 殊構造物と管渠の接続部の計算(地震動による屈曲角 ・拔出し量)、特殊構造物本体の計算 液状化の判定、 <u>特 殊構造物と管渠の接続部の計算(地震動による屈曲角 ・拔出し量)</u> 、特殊構造物本体の計算																																															
作業項目	作業内容																																																
	区分	作業の範囲																																															
1. 基礎調査																																																	
1-1 特殊構造物 情報収集・整理	特殊構造物の耐震 計算に必要な資料 収集・整理	竣工図書・設計図書・老朽度調査記録等に基づく構造 諸元・地盤諸元の整理																																															
1-2 現地踏査	現場状況の調査	土地利用、道路状況																																															
1-3 現地作業	特殊構造物内部の 調査	<u>耐震計算を行う特殊構造物内部(接続部を含む)の目 視観察、特殊構造物の形状・深さの測定</u>																																															
2. 条件設定		基礎調査で収集した資料等に基づき、耐震計算を実施 するための条件を設定																																															
3. 耐震計算による性能 の定量的評価	詳細診断 (レベル1の場合) (レベル1及び レベル2の場合)	基礎調査に基づく耐震計算、特殊構造物の耐震性能の 定量的評価 液状化の判定、 <u>特 殊構造物と管渠の接続部の計算(地震動による屈曲角 ・拔出し量)</u> 、特殊構造物本体の計算 液状化の判定、 <u>浮き上がり及び目地開口量の検討</u> 、特 殊構造物と管渠の接続部の計算(地震動による屈曲角 ・拔出し量)、特殊構造物本体の計算																																															

平成27年10月 土木工事積算基準等正誤表

区分	頁・行	誤	備考								
下水編	施設設計 132 (936)	<p>(注) 1 管路情報収集・整理は、管路の電子化情報の有無により、次表の補正を行う。</p> <table border="1" data-bbox="878 344 1536 539"> <thead> <tr> <th>管路の電子化情報</th> <th>補正率</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>有り</td> <td>1.00</td> </tr> <tr> <td>無し(調査対象:幹線のみ)</td> <td>2.39</td> </tr> <tr> <td>無し(調査対象:枝線のみ)</td> <td>3.69</td> </tr> </tbody> </table> <p>2 報告書作成、設計協議は、面積補正は行わない。</p>	管路の電子化情報	補正率	有り	1.00	無し(調査対象:幹線のみ)	2.39	無し(調査対象:枝線のみ)	3.69	文字の訂正
管路の電子化情報	補正率										
有り	1.00										
無し(調査対象:幹線のみ)	2.39										
無し(調査対象:枝線のみ)	3.69										
正											
		<p>(注) 1 管路情報収集・整理は、管路の電子化情報の有無により、次表の補正を行う。</p> <table border="1" data-bbox="900 967 1518 1152"> <thead> <tr> <th>管路の電子化情報</th> <th>補正率</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>有り</td> <td>1.00</td> </tr> <tr> <td>無し(調査対象:幹線のみ)</td> <td>2.39</td> </tr> <tr> <td>無し(調査対象:枝線まで)</td> <td>3.69</td> </tr> </tbody> </table> <p>2 報告書作成、設計協議は、面積補正は行わない。</p>	管路の電子化情報	補正率	有り	1.00	無し(調査対象:幹線のみ)	2.39	無し(調査対象:枝線まで)	3.69	
管路の電子化情報	補正率										
有り	1.00										
無し(調査対象:幹線のみ)	2.39										
無し(調査対象:枝線まで)	3.69										

平成27年10月 土木工事積算基準等正誤表

区分	頁・行	誤	備考								
下水編	施設設計 133 (937)	<p>(注) 1 管路情報収集・整理は、管路の電子化情報の有無により、次表の補正を行う。</p> <table border="1" data-bbox="900 352 1520 534"> <thead> <tr> <th>管路の電子化情報</th> <th>補正率</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>有り</td> <td>1.00</td> </tr> <tr> <td>無し(調査対象:幹線のみ)</td> <td>2.39</td> </tr> <tr> <td>無し(調査対象:枝線のみ)</td> <td>3.69</td> </tr> </tbody> </table> <p>2 報告書作成、設計協議は、面積補正は行わない。</p>	管路の電子化情報	補正率	有り	1.00	無し(調査対象:幹線のみ)	2.39	無し(調査対象:枝線のみ)	3.69	文字の訂正
管路の電子化情報	補正率										
有り	1.00										
無し(調査対象:幹線のみ)	2.39										
無し(調査対象:枝線のみ)	3.69										
正											
		<p>(注) 1 管路情報収集・整理は、管路の電子化情報の有無により、次表の補正を行う。</p> <table border="1" data-bbox="896 959 1516 1141"> <thead> <tr> <th>管路の電子化情報</th> <th>補正率</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>有り</td> <td>1.00</td> </tr> <tr> <td>無し(調査対象:幹線のみ)</td> <td>2.39</td> </tr> <tr> <td>無し(調査対象:枝線まで)</td> <td>3.69</td> </tr> </tbody> </table> <p>2 報告書作成、設計協議は、面積補正は行わない。</p>	管路の電子化情報	補正率	有り	1.00	無し(調査対象:幹線のみ)	2.39	無し(調査対象:枝線まで)	3.69	
管路の電子化情報	補正率										
有り	1.00										
無し(調査対象:幹線のみ)	2.39										
無し(調査対象:枝線まで)	3.69										

平成27年10月 土木工事積算基準等正誤表

区分	頁・行	誤	備考																																														
下水編	施設設計 134 (938)	<p>c) 報告書作成(詳細設計)</p> <p>本歩掛は、管路施設耐震診断調査(簡易診断)において報告書を作成する場合に適用する。 なお、本歩掛は、管路施設の耐震診断調査に付随して適用するものであり、報告書作成を単独の業務で行う場合は設計協議を計上するものとする。</p> <p>表-IV-3 報告書作成(簡易診断)基準歩掛 (1式当り)(単位:人)</p> <table border="1" data-bbox="801 448 1574 523"> <thead> <tr> <th>作業項目</th> <th>技術長</th> <th>主任技師</th> <th>技師(A)</th> <th>技師(B)</th> <th>技師(C)</th> <th>技術員</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>報告書作成</td> <td>-</td> <td>1.0</td> <td>3.0</td> <td>3.5</td> <td>1.0</td> <td>-</td> </tr> </tbody> </table> <p>d) 設計協議(詳細設計)</p> <p>表-IV-4 設計協議(簡易診断)基準歩掛 (単位:人)</p> <table border="1" data-bbox="757 624 1626 778"> <thead> <tr> <th>作業項目</th> <th>技師長</th> <th>主任技師</th> <th>技師(A)</th> <th>技師(B)</th> <th>技師(C)</th> <th>技術員</th> <th>備考</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>第1回打合せ</td> <td>-</td> <td>1.0</td> <td>1.0</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>-</td> <td></td> </tr> <tr> <td>中間打合せ</td> <td>-</td> <td>1.0</td> <td>1.0</td> <td>1.0</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>1回当り</td> </tr> <tr> <td>最終打合せ</td> <td>-</td> <td>1.0</td> <td>1.0</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>-</td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	作業項目	技術長	主任技師	技師(A)	技師(B)	技師(C)	技術員	報告書作成	-	1.0	3.0	3.5	1.0	-	作業項目	技師長	主任技師	技師(A)	技師(B)	技師(C)	技術員	備考	第1回打合せ	-	1.0	1.0	-	-	-		中間打合せ	-	1.0	1.0	1.0	-	-	1回当り	最終打合せ	-	1.0	1.0	-	-	-		文字の訂正
作業項目	技術長	主任技師	技師(A)	技師(B)	技師(C)	技術員																																											
報告書作成	-	1.0	3.0	3.5	1.0	-																																											
作業項目	技師長	主任技師	技師(A)	技師(B)	技師(C)	技術員	備考																																										
第1回打合せ	-	1.0	1.0	-	-	-																																											
中間打合せ	-	1.0	1.0	1.0	-	-	1回当り																																										
最終打合せ	-	1.0	1.0	-	-	-																																											
正																																																	
		<p>c) 報告書作成(簡易診断)</p> <p>本歩掛は、管路施設耐震診断調査(簡易診断)において報告書を作成する場合に適用する。 なお、本歩掛は、管路施設の耐震診断調査に付随して適用するものであり、報告書作成を単独の業務で行う場合は設計協議を計上するものとする。</p> <p>表-IV-3 報告書作成(簡易診断)基準歩掛 (1式当り)(単位:人)</p> <table border="1" data-bbox="801 1070 1574 1145"> <thead> <tr> <th>作業項目</th> <th>技術長</th> <th>主任技師</th> <th>技師(A)</th> <th>技師(B)</th> <th>技師(C)</th> <th>技術員</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>報告書作成</td> <td>-</td> <td>1.0</td> <td>3.0</td> <td>3.5</td> <td>1.0</td> <td>-</td> </tr> </tbody> </table> <p>d) 設計協議(簡易診断)</p> <p>表-IV-4 設計協議(簡易診断)基準歩掛 (単位:人)</p> <table border="1" data-bbox="757 1246 1626 1401"> <thead> <tr> <th>作業項目</th> <th>技師長</th> <th>主任技師</th> <th>技師(A)</th> <th>技師(B)</th> <th>技師(C)</th> <th>技術員</th> <th>備考</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>第1回打合せ</td> <td>-</td> <td>1.0</td> <td>1.0</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>-</td> <td></td> </tr> <tr> <td>中間打合せ</td> <td>-</td> <td>1.0</td> <td>1.0</td> <td>1.0</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>1回当り</td> </tr> <tr> <td>最終打合せ</td> <td>-</td> <td>1.0</td> <td>1.0</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>-</td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	作業項目	技術長	主任技師	技師(A)	技師(B)	技師(C)	技術員	報告書作成	-	1.0	3.0	3.5	1.0	-	作業項目	技師長	主任技師	技師(A)	技師(B)	技師(C)	技術員	備考	第1回打合せ	-	1.0	1.0	-	-	-		中間打合せ	-	1.0	1.0	1.0	-	-	1回当り	最終打合せ	-	1.0	1.0	-	-	-		
作業項目	技術長	主任技師	技師(A)	技師(B)	技師(C)	技術員																																											
報告書作成	-	1.0	3.0	3.5	1.0	-																																											
作業項目	技師長	主任技師	技師(A)	技師(B)	技師(C)	技術員	備考																																										
第1回打合せ	-	1.0	1.0	-	-	-																																											
中間打合せ	-	1.0	1.0	1.0	-	-	1回当り																																										
最終打合せ	-	1.0	1.0	-	-	-																																											

平成27年10月 土木工事積算基準等正誤表

区分	頁・行	誤	備考																																																																																																																														
下水編	施設設計 196 (1000)	<table border="1"> <thead> <tr> <th>作業項目</th> <th>技師長</th> <th>主任技師</th> <th>技師(A)</th> <th>技師(B)</th> <th>技師(C)</th> <th>技術員</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>6. 長期改築・修繕計画の策定</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>6-1 改築需要量の検討</td> <td>-</td> <td>1.0</td> <td>2.0</td> <td>3.0</td> <td>2.5</td> <td>3.5</td> </tr> <tr> <td>6-2 改築シナリオの選定</td> <td>-</td> <td>2.5</td> <td>3.5</td> <td>4.5</td> <td>3.0</td> <td>1.0</td> </tr> <tr> <td>6-3 長期改築修繕計画のとりまとめ</td> <td>0.5</td> <td>1.0</td> <td>2.5</td> <td>2.5</td> <td>2.0</td> <td>1.0</td> </tr> <tr> <td>小計</td> <td>0.5</td> <td>4.5</td> <td>8.0</td> <td>10.0</td> <td>7.5</td> <td>5.5</td> </tr> <tr> <td>7. 短期改築計画(長寿命化計画)の策定</td> <td colspan="6">表-VI-4による</td> </tr> <tr> <td>小計</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>8. 短期修繕計画の策定</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>8-1 対象施設の選定</td> <td>-</td> <td>1.0</td> <td>1.0</td> <td>2.0</td> <td>1.0</td> <td>-</td> </tr> <tr> <td>8-2 短期修繕計画の策定</td> <td>-</td> <td>1.5</td> <td>2.5</td> <td>3.0</td> <td>2.0</td> <td>0.5</td> </tr> <tr> <td>8-3 修繕計画のとりまとめ</td> <td>0.5</td> <td>2.0</td> <td>2.5</td> <td>0.5</td> <td>0.5</td> <td>1.0</td> </tr> <tr> <td>小計</td> <td>0.5</td> <td>4.5</td> <td>6.0</td> <td>5.5</td> <td>3.5</td> <td>1.5</td> </tr> <tr> <td>9. 関係機関への説明資料作成</td> <td colspan="6">(別途計上)</td> </tr> <tr> <td>10. 照査</td> <td>0.5</td> <td>2.0</td> <td>2.0</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>-</td> </tr> <tr> <td>11. 報告書作成</td> <td colspan="6">表-VI-5による</td> </tr> <tr> <td>12. 設計協議</td> <td colspan="6">表-VI-6による</td> </tr> <tr> <td>計</td> <td>1.5</td> <td>23.5</td> <td>41.5</td> <td>47.0</td> <td>30.5</td> <td>17.5</td> </tr> </tbody> </table>	作業項目	技師長	主任技師	技師(A)	技師(B)	技師(C)	技術員	6. 長期改築・修繕計画の策定							6-1 改築需要量の検討	-	1.0	2.0	3.0	2.5	3.5	6-2 改築シナリオの選定	-	2.5	3.5	4.5	3.0	1.0	6-3 長期改築修繕計画のとりまとめ	0.5	1.0	2.5	2.5	2.0	1.0	小計	0.5	4.5	8.0	10.0	7.5	5.5	7. 短期改築計画(長寿命化計画)の策定	表-VI-4による						小計							8. 短期修繕計画の策定							8-1 対象施設の選定	-	1.0	1.0	2.0	1.0	-	8-2 短期修繕計画の策定	-	1.5	2.5	3.0	2.0	0.5	8-3 修繕計画のとりまとめ	0.5	2.0	2.5	0.5	0.5	1.0	小計	0.5	4.5	6.0	5.5	3.5	1.5	9. 関係機関への説明資料作成	(別途計上)						10. 照査	0.5	2.0	2.0	-	-	-	11. 報告書作成	表-VI-5による						12. 設計協議	表-VI-6による						計	1.5	23.5	41.5	47.0	30.5	17.5	合計数値の訂正
		作業項目	技師長	主任技師	技師(A)	技師(B)	技師(C)	技術員																																																																																																																									
6. 長期改築・修繕計画の策定																																																																																																																																	
6-1 改築需要量の検討	-	1.0	2.0	3.0	2.5	3.5																																																																																																																											
6-2 改築シナリオの選定	-	2.5	3.5	4.5	3.0	1.0																																																																																																																											
6-3 長期改築修繕計画のとりまとめ	0.5	1.0	2.5	2.5	2.0	1.0																																																																																																																											
小計	0.5	4.5	8.0	10.0	7.5	5.5																																																																																																																											
7. 短期改築計画(長寿命化計画)の策定	表-VI-4による																																																																																																																																
小計																																																																																																																																	
8. 短期修繕計画の策定																																																																																																																																	
8-1 対象施設の選定	-	1.0	1.0	2.0	1.0	-																																																																																																																											
8-2 短期修繕計画の策定	-	1.5	2.5	3.0	2.0	0.5																																																																																																																											
8-3 修繕計画のとりまとめ	0.5	2.0	2.5	0.5	0.5	1.0																																																																																																																											
小計	0.5	4.5	6.0	5.5	3.5	1.5																																																																																																																											
9. 関係機関への説明資料作成	(別途計上)																																																																																																																																
10. 照査	0.5	2.0	2.0	-	-	-																																																																																																																											
11. 報告書作成	表-VI-5による																																																																																																																																
12. 設計協議	表-VI-6による																																																																																																																																
計	1.5	23.5	41.5	47.0	30.5	17.5																																																																																																																											
正	<table border="1"> <thead> <tr> <th>作業項目</th> <th>技師長</th> <th>主任技師</th> <th>技師(A)</th> <th>技師(B)</th> <th>技師(C)</th> <th>技術員</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>6. 長期改築・修繕計画の策定</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>6-1 改築需要量の検討</td> <td>-</td> <td>1.0</td> <td>2.0</td> <td>3.0</td> <td>2.5</td> <td>3.5</td> </tr> <tr> <td>6-2 改築シナリオの選定</td> <td>-</td> <td>2.5</td> <td>3.5</td> <td>4.5</td> <td>3.0</td> <td>1.0</td> </tr> <tr> <td>6-3 長期改築修繕計画のとりまとめ</td> <td>0.5</td> <td>1.0</td> <td>2.5</td> <td>2.5</td> <td>2.0</td> <td>1.0</td> </tr> <tr> <td>小計</td> <td>0.5</td> <td>4.5</td> <td>8.0</td> <td>10.0</td> <td>7.5</td> <td>5.5</td> </tr> <tr> <td>7. 短期改築計画(長寿命化計画)の策定</td> <td colspan="6">表-VI-4による</td> </tr> <tr> <td>小計</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>8. 短期修繕計画の策定</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>8-1 対象施設の選定</td> <td>-</td> <td>1.0</td> <td>1.0</td> <td>2.0</td> <td>1.0</td> <td>-</td> </tr> <tr> <td>8-2 短期修繕計画の策定</td> <td>-</td> <td>1.5</td> <td>2.5</td> <td>3.0</td> <td>2.0</td> <td>0.5</td> </tr> <tr> <td>8-3 修繕計画のとりまとめ</td> <td>0.5</td> <td>2.0</td> <td>2.5</td> <td>0.5</td> <td>0.5</td> <td>1.0</td> </tr> <tr> <td>小計</td> <td>0.5</td> <td>4.5</td> <td>6.0</td> <td>5.5</td> <td>3.5</td> <td>1.5</td> </tr> <tr> <td>9. 関係機関への説明資料作成</td> <td colspan="6">(別途計上)</td> </tr> <tr> <td>10. 照査</td> <td>0.5</td> <td>2.0</td> <td>2.0</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>-</td> </tr> <tr> <td>11. 報告書作成</td> <td colspan="6">表-VI-5による</td> </tr> <tr> <td>12. 設計協議</td> <td colspan="6">表-VI-6による</td> </tr> <tr> <td>計</td> <td>1.5</td> <td>25.0</td> <td>44.0</td> <td>48.0</td> <td>31.0</td> <td>17.5</td> </tr> </tbody> </table>	作業項目	技師長	主任技師	技師(A)	技師(B)	技師(C)	技術員	6. 長期改築・修繕計画の策定							6-1 改築需要量の検討	-	1.0	2.0	3.0	2.5	3.5	6-2 改築シナリオの選定	-	2.5	3.5	4.5	3.0	1.0	6-3 長期改築修繕計画のとりまとめ	0.5	1.0	2.5	2.5	2.0	1.0	小計	0.5	4.5	8.0	10.0	7.5	5.5	7. 短期改築計画(長寿命化計画)の策定	表-VI-4による						小計							8. 短期修繕計画の策定							8-1 対象施設の選定	-	1.0	1.0	2.0	1.0	-	8-2 短期修繕計画の策定	-	1.5	2.5	3.0	2.0	0.5	8-3 修繕計画のとりまとめ	0.5	2.0	2.5	0.5	0.5	1.0	小計	0.5	4.5	6.0	5.5	3.5	1.5	9. 関係機関への説明資料作成	(別途計上)						10. 照査	0.5	2.0	2.0	-	-	-	11. 報告書作成	表-VI-5による						12. 設計協議	表-VI-6による						計	1.5	25.0	44.0	48.0	31.0	17.5		
作業項目	技師長	主任技師	技師(A)	技師(B)	技師(C)	技術員																																																																																																																											
6. 長期改築・修繕計画の策定																																																																																																																																	
6-1 改築需要量の検討	-	1.0	2.0	3.0	2.5	3.5																																																																																																																											
6-2 改築シナリオの選定	-	2.5	3.5	4.5	3.0	1.0																																																																																																																											
6-3 長期改築修繕計画のとりまとめ	0.5	1.0	2.5	2.5	2.0	1.0																																																																																																																											
小計	0.5	4.5	8.0	10.0	7.5	5.5																																																																																																																											
7. 短期改築計画(長寿命化計画)の策定	表-VI-4による																																																																																																																																
小計																																																																																																																																	
8. 短期修繕計画の策定																																																																																																																																	
8-1 対象施設の選定	-	1.0	1.0	2.0	1.0	-																																																																																																																											
8-2 短期修繕計画の策定	-	1.5	2.5	3.0	2.0	0.5																																																																																																																											
8-3 修繕計画のとりまとめ	0.5	2.0	2.5	0.5	0.5	1.0																																																																																																																											
小計	0.5	4.5	6.0	5.5	3.5	1.5																																																																																																																											
9. 関係機関への説明資料作成	(別途計上)																																																																																																																																
10. 照査	0.5	2.0	2.0	-	-	-																																																																																																																											
11. 報告書作成	表-VI-5による																																																																																																																																
12. 設計協議	表-VI-6による																																																																																																																																
計	1.5	25.0	44.0	48.0	31.0	17.5																																																																																																																											

平成27年10月 土木工事積算基準等正誤表

区分	頁・行	誤	備考																																																																																																																														
下水編	施設設計 198 (1002)	<table border="1"> <thead> <tr> <th>作業項目</th> <th>技師長</th> <th>主任技師</th> <th>技師(A)</th> <th>技師(B)</th> <th>技師(C)</th> <th>技術員</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>6. 長期改築・修繕計画の策定</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>6-1 改築需要量の検討</td> <td>-</td> <td>1.0</td> <td>1.5</td> <td>2.0</td> <td>1.0</td> <td>1.0</td> </tr> <tr> <td>6-2 改築シナリオの選定</td> <td>-</td> <td>1.5</td> <td>1.5</td> <td>2.0</td> <td>2.5</td> <td>1.0</td> </tr> <tr> <td>6-3 長期改築修繕計画のとりまとめ</td> <td>0.5</td> <td>1.0</td> <td>2.0</td> <td>2.0</td> <td>2.0</td> <td>1.0</td> </tr> <tr> <td>小計</td> <td>0.5</td> <td>3.5</td> <td>5.0</td> <td>6.0</td> <td>5.5</td> <td>3.0</td> </tr> <tr> <td>7. 短期改築計画(長寿命化計画)の策定</td> <td colspan="6">表-VI-4による</td> </tr> <tr> <td>小計</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>8. 短期修繕計画の策定</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>8-1 対象施設の選定</td> <td>-</td> <td>0.5</td> <td>1.0</td> <td>1.0</td> <td>0.5</td> <td>-</td> </tr> <tr> <td>8-2 短期修繕計画の策定</td> <td>-</td> <td>1.5</td> <td>2.0</td> <td>2.0</td> <td>2.0</td> <td>0.5</td> </tr> <tr> <td>8-3 修繕計画のとりまとめ</td> <td>0.5</td> <td>1.5</td> <td>1.5</td> <td>0.5</td> <td>0.5</td> <td>0.5</td> </tr> <tr> <td>小計</td> <td>0.5</td> <td>3.5</td> <td>4.5</td> <td>3.5</td> <td>3.0</td> <td>1.0</td> </tr> <tr> <td>9. 関係機関への説明資料作成</td> <td colspan="6">(別途計上)</td> </tr> <tr> <td>10. 照査</td> <td>0.5</td> <td>2.0</td> <td>1.5</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>-</td> </tr> <tr> <td>11. 報告書作成</td> <td colspan="6">表-VI-5による</td> </tr> <tr> <td>12. 設計協議</td> <td colspan="6">表-VI-6による</td> </tr> <tr> <td>計</td> <td>1.5</td> <td>19.0</td> <td>29.0</td> <td>29.5</td> <td>23.5</td> <td>13.0</td> </tr> </tbody> </table>	作業項目	技師長	主任技師	技師(A)	技師(B)	技師(C)	技術員	6. 長期改築・修繕計画の策定							6-1 改築需要量の検討	-	1.0	1.5	2.0	1.0	1.0	6-2 改築シナリオの選定	-	1.5	1.5	2.0	2.5	1.0	6-3 長期改築修繕計画のとりまとめ	0.5	1.0	2.0	2.0	2.0	1.0	小計	0.5	3.5	5.0	6.0	5.5	3.0	7. 短期改築計画(長寿命化計画)の策定	表-VI-4による						小計							8. 短期修繕計画の策定							8-1 対象施設の選定	-	0.5	1.0	1.0	0.5	-	8-2 短期修繕計画の策定	-	1.5	2.0	2.0	2.0	0.5	8-3 修繕計画のとりまとめ	0.5	1.5	1.5	0.5	0.5	0.5	小計	0.5	3.5	4.5	3.5	3.0	1.0	9. 関係機関への説明資料作成	(別途計上)						10. 照査	0.5	2.0	1.5	-	-	-	11. 報告書作成	表-VI-5による						12. 設計協議	表-VI-6による						計	1.5	19.0	29.0	29.5	23.5	13.0	合計数値の訂正
作業項目	技師長	主任技師	技師(A)	技師(B)	技師(C)	技術員																																																																																																																											
6. 長期改築・修繕計画の策定																																																																																																																																	
6-1 改築需要量の検討	-	1.0	1.5	2.0	1.0	1.0																																																																																																																											
6-2 改築シナリオの選定	-	1.5	1.5	2.0	2.5	1.0																																																																																																																											
6-3 長期改築修繕計画のとりまとめ	0.5	1.0	2.0	2.0	2.0	1.0																																																																																																																											
小計	0.5	3.5	5.0	6.0	5.5	3.0																																																																																																																											
7. 短期改築計画(長寿命化計画)の策定	表-VI-4による																																																																																																																																
小計																																																																																																																																	
8. 短期修繕計画の策定																																																																																																																																	
8-1 対象施設の選定	-	0.5	1.0	1.0	0.5	-																																																																																																																											
8-2 短期修繕計画の策定	-	1.5	2.0	2.0	2.0	0.5																																																																																																																											
8-3 修繕計画のとりまとめ	0.5	1.5	1.5	0.5	0.5	0.5																																																																																																																											
小計	0.5	3.5	4.5	3.5	3.0	1.0																																																																																																																											
9. 関係機関への説明資料作成	(別途計上)																																																																																																																																
10. 照査	0.5	2.0	1.5	-	-	-																																																																																																																											
11. 報告書作成	表-VI-5による																																																																																																																																
12. 設計協議	表-VI-6による																																																																																																																																
計	1.5	19.0	29.0	29.5	23.5	13.0																																																																																																																											
正																																																																																																																																	
<table border="1"> <thead> <tr> <th>作業項目</th> <th>技師長</th> <th>主任技師</th> <th>技師(A)</th> <th>技師(B)</th> <th>技師(C)</th> <th>技術員</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>6. 長期改築・修繕計画の策定</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>6-1 改築需要量の検討</td> <td>-</td> <td>1.0</td> <td>1.5</td> <td>2.0</td> <td>1.0</td> <td>1.0</td> </tr> <tr> <td>6-2 改築シナリオの選定</td> <td>-</td> <td>1.5</td> <td>1.5</td> <td>2.0</td> <td>2.5</td> <td>1.0</td> </tr> <tr> <td>6-3 長期改築修繕計画のとりまとめ</td> <td>0.5</td> <td>1.0</td> <td>2.0</td> <td>2.0</td> <td>2.0</td> <td>1.0</td> </tr> <tr> <td>小計</td> <td>0.5</td> <td>3.5</td> <td>5.0</td> <td>6.0</td> <td>5.5</td> <td>3.0</td> </tr> <tr> <td>7. 短期改築計画(長寿命化計画)の策定</td> <td colspan="6">表-VI-4による</td> </tr> <tr> <td>小計</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>8. 短期修繕計画の策定</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>8-1 対象施設の選定</td> <td>-</td> <td>0.5</td> <td>1.0</td> <td>1.0</td> <td>0.5</td> <td>-</td> </tr> <tr> <td>8-2 短期修繕計画の策定</td> <td>-</td> <td>1.5</td> <td>2.0</td> <td>2.0</td> <td>2.0</td> <td>0.5</td> </tr> <tr> <td>8-3 修繕計画のとりまとめ</td> <td>0.5</td> <td>1.5</td> <td>1.5</td> <td>0.5</td> <td>0.5</td> <td>0.5</td> </tr> <tr> <td>小計</td> <td>0.5</td> <td>3.5</td> <td>4.5</td> <td>3.5</td> <td>3.0</td> <td>1.0</td> </tr> <tr> <td>9. 関係機関への説明資料作成</td> <td colspan="6">(別途計上)</td> </tr> <tr> <td>10. 照査</td> <td>0.5</td> <td>2.0</td> <td>1.5</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>-</td> </tr> <tr> <td>11. 報告書作成</td> <td colspan="6">表-VI-5による</td> </tr> <tr> <td>12. 設計協議</td> <td colspan="6">表-VI-6による</td> </tr> <tr> <td>計</td> <td>1.5</td> <td>20.5</td> <td>31.5</td> <td>31.0</td> <td>24.0</td> <td>13.0</td> </tr> </tbody> </table>			作業項目	技師長	主任技師	技師(A)	技師(B)	技師(C)	技術員	6. 長期改築・修繕計画の策定							6-1 改築需要量の検討	-	1.0	1.5	2.0	1.0	1.0	6-2 改築シナリオの選定	-	1.5	1.5	2.0	2.5	1.0	6-3 長期改築修繕計画のとりまとめ	0.5	1.0	2.0	2.0	2.0	1.0	小計	0.5	3.5	5.0	6.0	5.5	3.0	7. 短期改築計画(長寿命化計画)の策定	表-VI-4による						小計							8. 短期修繕計画の策定							8-1 対象施設の選定	-	0.5	1.0	1.0	0.5	-	8-2 短期修繕計画の策定	-	1.5	2.0	2.0	2.0	0.5	8-3 修繕計画のとりまとめ	0.5	1.5	1.5	0.5	0.5	0.5	小計	0.5	3.5	4.5	3.5	3.0	1.0	9. 関係機関への説明資料作成	(別途計上)						10. 照査	0.5	2.0	1.5	-	-	-	11. 報告書作成	表-VI-5による						12. 設計協議	表-VI-6による						計	1.5	20.5	31.5	31.0	24.0	13.0	
作業項目	技師長	主任技師	技師(A)	技師(B)	技師(C)	技術員																																																																																																																											
6. 長期改築・修繕計画の策定																																																																																																																																	
6-1 改築需要量の検討	-	1.0	1.5	2.0	1.0	1.0																																																																																																																											
6-2 改築シナリオの選定	-	1.5	1.5	2.0	2.5	1.0																																																																																																																											
6-3 長期改築修繕計画のとりまとめ	0.5	1.0	2.0	2.0	2.0	1.0																																																																																																																											
小計	0.5	3.5	5.0	6.0	5.5	3.0																																																																																																																											
7. 短期改築計画(長寿命化計画)の策定	表-VI-4による																																																																																																																																
小計																																																																																																																																	
8. 短期修繕計画の策定																																																																																																																																	
8-1 対象施設の選定	-	0.5	1.0	1.0	0.5	-																																																																																																																											
8-2 短期修繕計画の策定	-	1.5	2.0	2.0	2.0	0.5																																																																																																																											
8-3 修繕計画のとりまとめ	0.5	1.5	1.5	0.5	0.5	0.5																																																																																																																											
小計	0.5	3.5	4.5	3.5	3.0	1.0																																																																																																																											
9. 関係機関への説明資料作成	(別途計上)																																																																																																																																
10. 照査	0.5	2.0	1.5	-	-	-																																																																																																																											
11. 報告書作成	表-VI-5による																																																																																																																																
12. 設計協議	表-VI-6による																																																																																																																																
計	1.5	20.5	31.5	31.0	24.0	13.0																																																																																																																											

2) 注入設備移設

注入設備を中心に半径50mを超える場合、又は同一現場内に施工箇所が2箇所以上あり、注入設備を移設しなければならない場合の歩掛は次表とする。

表-39-22 注入設備 移設歩掛 (地上) (1回当り)

名称	単位	規格	二重ストレーナ工法		二重管ダブルパッカー工法		
			2セット	4セット	削孔		注入
					1セット	2セット	4セット
土木一般世話役	人		1.3	2.0	1.0	1.0	2.0
特殊作業員	人		5.5	8.5	3.0	4.0	7.5
普通作業員	人		2.2	3.5	1.0	1.5	2.5
トラック運転 (クレーン装置付)	時間	4t級 2.9t	8	11	4	4	12

(2) 移設設備

移設設備の据付・解体の歩掛は、次表とする。

表-39-23 二重管ストレーナ工法注入設備 据付・解体歩掛 (車上) (1現場当り)

名称	単位	規格	二重管ストレーナ工法 (車上)	摘要
土木一般世話役	人		2.0	
特殊作業員	人		2.6	
普通作業員	人		3.7	
トラック運転	時間	クレーン装置付 4t級 2.9t吊	14.5	
トラック損料	日	4~4.5t積	2.0 × α	備考5
諸雑費	式		1	
小計				
トラック損料 (注入時)	日			備考6
小計				
計				

備考 1 上表は、薬液の調合・送液等に必要注入設備の据付・解体に要するものである。

2 注入設備工は昼間施工とする。

3 上表は、2セット分の歩掛である。

4 本歩掛は、注入設備据付・解体の一切を含む。

5 据付・解体のトラック損料日数 = (注入設備据付日数 + 注入設備解体日数) × α

注入設備据付日数 = 1.0日、注入設備解体日数 = 1.0日

6 日数 =
$$\frac{\text{総注入量 } V \text{ (kl)}}{1 \text{ 本当り注入量 } Q_s \text{ (kl/本)} \times 1 \text{ 本当り施工本数}} \times \alpha$$

α : 供用日の割増率

1. 適用範囲

本歩掛は、下水道工事における組立マンホール設置作業に適用する。

2. 施工歩掛

ブロック据付工は、市場単価を適用する。

LD-52~55-1 底部工（組立式）

(1箇所当り)

種 目	形 状 寸 法	単 位	数 量	単 価 (円)	金 額 (円)	摘 要
砕 石 基 礎 工	〇〇-40	m ²	面積(m ²)×厚さ(m) ×(1+ロス率)			表-44-6
インバートコンクリート工		m ³				
モ ル タ ル 上 塗 工	配合1:2 厚さ2cm	m ²				LE-44-3
計						

備考 1 基礎砕石の施工手間については、組立マンホール設置工に含む。

2 インバート付底塊を使用する場合は、インバートコンクリート工及びモルタル上塗り工を除く。

LB-13 小型マンホール工

(一式)

種 目	形 状 寸 法	単 位	数 量	単 価 (円)	金 額 (円)	摘 要
小型マンホール (〇〇製)		箇所				LC-57-1~2
計						

LC-57-1 小型マンホール（塩化ビニル製）

(1箇所当り)

種 目	形 状 寸 法	単 位	数 量	単 価 (円)	金 額 (円)	摘 要
蓋 材 料 費	鋳鉄製防護蓋	個	1			必要に応じて計上
小型マンホール設置工	塩化ビニル製・形式	箇所	1			LD-57-1 (市場単価)
計						

LC-57-2 小型マンホール（レジンコンクリート製）

(1箇所当り)

種 目	形 状 寸 法	単 位	数 量	単 価 (円)	金 額 (円)	摘 要
材 料 費	種別・形式	個	1			
蓋 材 料 費	鋳鉄製防護蓋	個	1			
小型マンホール設置工	レジンコンクリート 製・形式	箇所	1			LD-57-3
基 礎 工	材料	m ³				必要に応じて計上
計						

3. 単価表

LD-119-1 推進用機器据付撤去工（泥水式・泥濃式推進）

施工単価コード DGD20770

(1箇所当り)

種 目	形 状 寸 法	単 位	数 量	単 価 (円)	金 額 (円)	摘 要
土 木 一 般 世 話 役		人				表-119-1
特 殊 作 業 員		人				表-119-1
普 通 作 業 員		人				表-119-1
床 板 材		m3				必要数量を計上
門 型 ク レ ー ン 運 転 費		日				表-119-1
諸 雑 費		式	1			端数処理
計						

LC-121 掘進機引上用受台

(1箇所当り)

種 目	形 状 寸 法	単 位	数 量	単 価 (円)	金 額 (円)	摘 要
掘進機引上用受台設置工		t				LD-121-1
掘進機引上用受台撤去工		t				LD-121-2
受 台 材 質 料		式	1			
諸 雑 費		式	1			受台材質料の15%
計						〇〇箇所当り
1 箇 所 当 り						計/〇〇箇所

1. 適用範囲

この積算資料は、泥水式推進、泥濃式推進工法の掘進機引上用受台の設置・撤去の作業に適用する。

2. 作業歩掛

損料日数：受台設置開始日から掘進機引き上げ後、受台を撤去するまでの日数とする。

3. 単価表

LD-121-1 掘進機引上用受台設置工

施工単価コード DGD20580

(1t当り)

種 目	形 状 寸 法	単 位	数 量	単 価 (円)	金 額 (円)	摘 要
鋼 材 設 置 工		t				LE-103-1
計						

LD-121-2 掘進機引上用受台撤去工

施工単価コード DGD20590

(1t当り)

種 目	形 状 寸 法	単 位	数 量	単 価 (円)	金 額 (円)	摘 要
鋼 材 撤 去 工		t				LE-103-2
計						

LC-122 掘進機据付

(1台当り)

種 目	形 状 寸 法	単 位	数 量	単 価 (円)	金 額 (円)	摘 要
掘 進 機 据 付 工	泥水式・泥濃式推進	台				LD-122-1
計						〇〇台当り
1 台 当 り						計/〇〇台

平成28年1月4日以降積算基準日適用

(7) 硬質塩化ビニル板製長方形ダクト (ビニル・A)

[高圧2ダクト、1500(Pa)を超え2000(Pa)以下]

(出来上り1m²当り)

名 称	規格寸法等	単位	板厚 (mm)				
			4	5	5	5	6
			500以下	501~ 1,000	1,001~ 1,500	1,501~ 2,000	2,001~ 3,000
硬質塩化ビニル板		m ²	1.16	1.12	1.12	1.12	1.1
硬質塩化ビニル製 ア ン グ ル	50×50×6mm	m	2.0	—	—	—	—
	60×60×7〃	〃	—	2.2	2.2	2.2	2.2
補強鋼板 (SUS)	50×4mm	kg	—	1.2	1.2	1.3	2.2
ステンレス製 棒 鋼 ・ 形 鋼	M10, 30×30×3	kg	0.3	—	—	—	—
	M10, 40×40×3	〃	—	0.35	0.85	—	—
	M10, 40×40×5	〃	—	—	—	1.13	1.69
ボルトナット (SUS)	M 8×20 L	組	9.1	—	—	—	—
	M10×20 L	〃	—	8.9	11.4	10.5	12.0
フランジ用ガスケット	50mm幅	m	1.1	—	—	—	—
	60mm幅	〃	—	0.7	0.6	0.5	0.6
消 耗 品	一式 (材料費×0.05)						
加 工 取 付	ダクト工	人	0.72	0.78	0.81	0.83	0.93
運 搬 費	一式 (材料費+消耗品)×0.10						
そ の 他	一 式						

備考 ビニルAダクト：ダクト仕様は、補強鋼板・つり金物・ボルトナット等がステンレス製のもの。

(8) 硬質塩化ビニル板製長方形ダクト (ビニル・B)

[低圧・高圧1ダクト、1000 (Pa)以下]

(出来上り1m²当り)

名 称	規格寸法等	単位	板厚 (mm)				
			3	4	5	5	6
			500以下	501~ 1,000	1,001~ 1,500	1,501~ 2,000	2,001~ 3,000
硬質塩化ビニル板		m ²	1.16	1.12	1.12	1.12	1.1
硬質塩化ビニル製 ア ン グ ル	50×50×6mm	m	2.0	—	—	—	—
	60×60×7〃	〃	—	2.2	2.2	2.2	2.2
補 強 鋼 板	50×4.5mm	kg	—	—	1.2	1.3	2.2
棒 鋼 ・ 形 鋼	M10, 30×30×3	kg	0.3	—	—	—	—
	M10, 40×40×3	〃	—	0.35	0.85	—	—
	M10, 40×40×5	〃	—	—	—	1.13	1.69
ボ ル ト ナ ッ ト	M 8×20 L	組	9.1	—	—	—	—
	M10×20 L	〃	—	8.9	11.4	10.5	12.0
フランジ用ガスケット	50mm幅	m	1.1	—	—	—	—
	60mm幅	〃	—	0.7	0.6	0.5	0.6
消 耗 品	一式 (材料費×0.05)						
鋼 材 防 錆 塗 装	錆止めペイント	kg	0.02	0.03	0.14	0.17	0.27
加 工 取 付	塗 装 工	人	0.02	0.03	0.14	0.17	0.27
	ダクト工	人	0.72	0.78	0.81	0.83	0.93
運 搬 費	一式 (材料費+消耗品)×0.10						
そ の 他	一 式						

(注) 鋼材防錆塗装は、上記歩掛×0.34倍して計上する。塗装工は上記歩掛×0.03倍して計上する。

備考 ビニルBダクト：ダクト仕様は、補強鋼板・つり金物・ボルトナット等が普通鋼材製のもの。

平成28年1月4日以降積算基準日適用

(9) 硬質塩化ビニル板製長方形ダクト (ビニル・B)

[高圧2ダクト、1000(Pa)~1500(Pa)以下]

(出来上り1m²当り)

名 称	規格寸法等	単位	板厚 (mm)				
			3	5	5	5	6
			500以下	501~ 1,000	1,001~ 1,500	1,501~ 2,000	2,001~ 3,000
硬質塩化ビニル板		m ²	1.16	1.12	1.12	1.12	1.1
硬質塩化ビニル製 ア ン グ ル	50×50×6mm	m	2.0	—	—	—	—
	60×60×7〃	〃	—	2.2	2.2	2.2	2.2
補 強 鋼 板	50×4.5mm	kg	—	—	1.2	1.3	2.2
棒 鋼 ・ 形 鋼	M10, 30×30×3	kg	0.3	—	—	—	—
	M10, 40×40×3	〃	—	0.35	0.85	—	—
	M10, 40×40×5	〃	—	—	—	1.13	1.69
ボ ル ト ナ ッ ト	M 8×20 L	組	9.1	—	—	—	—
	M10×20 L	〃	—	8.9	11.4	10.5	12.0
フ ラ ン ジ 用 ガ ス ケ ッ ト	50mm幅	m	1.1	—	—	—	—
	60mm幅	〃	—	0.7	0.6	0.5	0.6
消 耗 品	一式 (材料費×0.05)						
鋼 材 防 錆 塗 装	錆止めペイント	kg	0.02	0.03	0.14	0.17	0.27
加 工 取 付	塗 装 工	人	0.02	0.03	0.14	0.17	0.27
	ダクト工	人	0.72	0.78	0.81	0.83	0.93
運 搬 費	一式 (材料費+消耗品) ×0.10						
そ の 他	一 式						

(注) 鋼材防錆塗装は、上記歩掛×0.34倍して計上する。塗装工は上記歩掛×0.03倍して計上する。

備考 ビニルBダクト：ダクト仕様は、補強鋼板・つり金物・ボルトナット等が普通鋼材製のもの。

(10) 硬質塩化ビニル板製長方形ダクト (ビニル・B)

[低圧・高圧2ダクト、1500(Pa)を超え2000(Pa)以下]

(出来上り1m²当り)

名 称	規格寸法等	単位	板厚 (mm)				
			4	5	5	5	6
			500以下	501~ 1,000	1,001~ 1,500	1,501~ 2,000	2,001~ 3,000
硬質塩化ビニル板		m ²	1.16	1.12	1.12	1.12	1.1
硬質塩化ビニル製 ア ン グ ル	50×50×6mm	m	2.0	—	—	—	—
	60×60×7〃	〃	—	2.2	2.2	2.2	2.2
補 強 鋼 板	50×4.5mm	kg	—	1.2	1.2	1.3	2.2
棒 鋼 ・ 形 鋼	M10, 30×30×3	kg	0.3	—	—	—	—
	M10, 40×40×3	〃	—	0.35	0.85	—	—
	M10, 40×40×5	〃	—	—	—	1.13	1.69
ボ ル ト ナ ッ ト	M 8×20 L	組	9.1	—	—	—	—
	M10×20 L	〃	—	8.9	11.4	10.5	12.0
フ ラ ン ジ 用 ガ ス ケ ッ ト	50mm幅	m	1.1	—	—	—	—
	60mm幅	〃	—	0.7	0.6	0.5	0.6
消 耗 品	一式 (材料費×0.05)						
鋼 材 防 錆 塗 装	錆止めペイント	kg	0.02	0.03	0.14	0.17	0.27
加 工 取 付	塗 装 工	人	0.02	0.03	0.14	0.17	0.27
	ダクト工	人	0.72	0.78	0.81	0.83	0.93
運 搬 費	一式 (材料費+消耗品) ×0.10						
そ の 他	一 式						

(注) 鋼材防錆塗装は、上記歩掛×0.34倍して計上する。塗装工は上記歩掛×0.03倍して計上する。

備考 ビニルBダクト：ダクト仕様は、補強鋼板・つり金物・ボルトナット等が普通鋼材製のもの。

g) 特殊マンホール（小規模で構造が簡易な施設）【DGS05800～DGS05809】

本歩掛は、標準図等の基準がなく、新たに構造計画、構造計算、配筋図等を必要とするマンホール（伏越室を含む。）で、マンホール深が浅く、小規模で構造が簡易な施設の設計に適用する。

表-I-13 特殊マンホール基準歩掛 (1箇所当り) (単位:人)

作業項目	技師長	主任技師	技師(A)	技師(B)	技師(C)	技術員
構造計画	—	0.5	—	—	—	—
各種計算	—	—	0.5	1.0	0.5	—
耐震設計	表-17-5による					
設計図作成	—	—	0.5	1.5	1.0	0.5
数量計算	—	—	0.5	1.0	0.5	—
照査	—	0.5	—	—	—	—
計	—	1.0	1.5	3.5	2.0	0.5

- (注) 1 本歩掛は管路の設計に付随して適用するものであり、マンホール単独で発注する場合は、設計協議を計上する。
 2 地形測量、地質調査は別途計上する。
 3 角形又は円形以外の形状で、構造計画等に配慮を要する場合は、本歩掛を20%割増して適用する。
 4 本歩掛はマンホール深が5mの施設に対するものであり、マンホール深が基準と異なる場合は、次表により補正するものとする。

マンホール深(H)(m)	補正率(α)	摘要
3.5未満	0.925	
3.5以上～4.5未満	0.950	
4.5以上～5.5未満	1.000	
5.5以上～7.0未満	1.063	
7.0以上～10.0未満	1.175	
10.0以上	1.250	

- 5 複数個の特殊マンホールを同時に発注する場合は、平均マンホール深で積算し、次表により補正するものとする。

個数補正率		
個数(N)	補正率(β)	摘要
1	1.000	基準式 $\beta = N^{0.821}$
2	1.767	
3	2.464	
4	3.121	
5	3.748	

- 6 耐震設計が不要な場合は、その項目を削除する。

1) 耐震設計

(レベル1地震動に対する応答変位法による耐震計算を行う場合)

本歩掛は、管路施設の耐震設計を行う場合に適用し、本体設計に付加して計上するものとする。
なお、本歩掛には管渠及びマンホールの耐震設計を含むものとする。

表-I-17-1 管路施設耐震設計業務基準歩掛

(単位：人)

作業項目	技師長	主任技師	技師(A)	技師(B)	技師(C)	技術員
調査	—	—	0.5	0.5	—	—
条件設定	—	0.5	1.0	0.5	—	—
耐震計算	—	—	0.5	1.5	1.0	1.0
照査	—	0.5	—	—	—	—
計	—	1.0	2.0	2.5	1.0	1.0

- (注) 1 基準延長は本体設計と同様とし、延長の補正も同様のものを使用する。
2 工法による補正は次表のとおりとする。

工法	補正率	工法	補正率
開削工法(内径1,200mm未満)	1.00	推進工法(刃口・小口径)	1.07
開削工法(内径1,200mm以上)	1.00	推進工法(中大口径)	1.19
開削工法(ボックスカルバート・開渠(現場打ち))	1.50	シールド工法	2.82

※布設替え工法(開削工法)は、開削工法に含む。

- 3 液状化防止対策は別途計上とする。
4 この基準歩掛は、耐震診断には適用しない。

(レベル1地震動に対する耐震計算を行う場合)

本歩掛は、管路施設の耐震設計を行う場合に適用し、本体設計に付加して計上するものとする。

表-I-17-2 管路施設耐震設計業務基準歩掛(管更生工法)

(単位：人)

作業項目	技師長	主任技師	技師(A)	技師(B)	技師(C)	技術員
調査	—	—	0.5	0.5	—	—
条件設定	—	0.5	0.5	0.5	—	—
耐震計算	—	—	0.5	1.5	1.0	1.0
照査	—	0.5	—	—	—	—
計	—	1.0	1.5	2.5	1.0	1.0

- (注) 1 基準延長は本体設計と同様とし、延長の補正も同様のものを使用する。
2 管種・管径による補正は次表のとおりとする。

工法	補正率	工法	補正率
円形管(800mm未満)	1.00	ボックスカルバート(短辺内径800mm未満)	1.40
円形管(800mm以上)	1.10	ボックスカルバート(短辺内径800mm以上)	1.50

(レベル1地震動及びレベル2地震動に対する応答変位法による耐震計算を行う場合)

本歩掛は、管渠施設の耐震設計を行う場合に適用し、本体設計に付加して計上するものとする。

なお、本歩掛には管渠及びマンホール（特殊マンホールは除く）の耐震設計を含むものとする。

表-1-17-3 管渠施設耐震設計業務基準歩掛

(単位：人)

作業項目	技師長	主任技師	技師(A)	技師(B)	技師(C)	技術員
調査	—	—	0.5	0.5	—	—
条件設定	—	0.5	1.0	0.5	0.5	—
耐震計算	—	—	1.0	2.5	2.0	1.0
照査	—	1.0	—	—	—	—
計	—	1.5	2.5	3.5	2.5	1.0

(注) 1 基準延長は本体設計と同様とし、延長の補正も同様のものを使用する。

2 工法による補正は次表のとおりとする。

工法	補正率	工法	補正率
開削工法（内径1,200mm未満）	1.00	推進工法（刃口・小口径）	1.07
開削工法（内径1,200mm以上）	1.00	推進工法（中大口径）	1.19
開削工法（ボックスカルバート・開渠）【現場打ち】	1.50	シールド工法	2.82

※布設替え工法（開削工法）は、開削工法に含む。

3 液状化防止対策は別途計上とする。

4 この基準歩掛は、耐震診断には適用しない。

(レベル1地震動及びレベル2地震動に対する耐震計算を行う場合)

本歩掛は、管路施設の耐震設計を行う場合に適用し、本体設計に付加して計上するものとする。

表-1-17-4 管路施設耐震設計業務基準歩掛（管更生工法）

(単位：人)

作業項目	技師長	主任技師	技師(A)	技師(B)	技師(C)	技術員
調査	—	—	0.5	0.5	—	—
条件設定	—	0.5	0.5	0.5	0.5	—
耐震計算	—	—	1.0	2.0	1.5	1.0
照査	—	0.5	—	—	—	—
計	—	1.0	2.0	3.0	2.0	1.0

(注) 1 基準延長は本体設計と同様とし、延長の補正も同様のものを使用する。

2 管種・管径による補正は次表のとおりとする。

工法	補正率	工法	補正率
円形管（800mm未満）	1.00	ボックスカルバート（短辺内径800mm未満）	1.40
円形管（800mm以上）	1.10	ボックスカルバート（短辺内径800mm以上）	1.50

(ロ) 管渠施設実施設計業務（新設及び改築・詳細設計）

- ①表-I-7～表-I-12及び表-I-21～表-I-24の各歩掛の総補正率はa)、b)、c)、e)の各補正率を乗じ、d)の補正率を加算するものとする。
- ②表-I-13及び表-I-14の歩掛の総補正率はマンホール深補正率及び個数補正率を乗じ、これに付加する表-I-17-5の歩掛の総補正率は個数補正率を乗じるものとする。
- ③表-I-15及び表-I-16、並びにこれに付加する表-I-17-5の各歩掛の総補正率は個数補正率を乗じるものとする。
- ④表-I-17-1～表-I-17-4の歩掛の総補正率は、a)、b)、c)、e)、の各補正率に工法による補正率を乗じるものとする。

a) 管路延長補正

管路延長による補正は、表-I-7～表-I-12及び表-I-21～表-I-24の各歩掛に、次の各工法ごとの該当する補正率を乗じたものとする。

なお、開削工法及び布設替え工法において、内径1,200mm未満、1,200mm以上の2種類の管径を含む場合及び、管更生工法において、内径800mm未満、800mm以上の2種類の管径を含む場合は、総管路延長に対する補正率を求め、「当該管路延長(m)／総管路延長(m)」を乗じた値をそれぞれの補正率とする。また、開削工法、推進工法、シールド工法、布設替え工法、管更生工法のうち、2種以上を含む場合は、各工法ごとの管路延長による補正率を表-I-7～表-I-12及び表-I-21～表-I-24の基準歩掛にそれぞれ乗じるものとする。

① 開削工法

表-I-26 開削工法管路延長補正率
(内径1,200mm未満、内径1,200mm以上、ボックスカルバート・開渠)

管路延長 (m)	補正率	管路延長 (m)	補正率	管路延長 (m)	補正率
100未満	0.318	以上 未満 550～650	0.572	以上 未満 2,000～2,300	1.302
以上 未満 100～150	0.331	650～750	0.621	2,300～2,600	1.433
150～200	0.357	750～900	0.683	2,600～2,900	1.562
200～250	0.382	900～1,050	0.756	2,900～3,200	1.687
250～300	0.408	1,050～1,200	0.829	3,200～3,600	1.828
300～350	0.433	1,200～1,400	0.912	3,600～4,000	1.985
350～400	0.459	1,400～1,600	1.000	4,000～4,500	2.155
400～450	0.484	1,600～1,800	1.099	4,500～5,000	2.334
450～550	0.522	1,800～2,000	1.190	—	—

- (注) 1 面整備における取付管の管路延長は含まない。
 2 5,000m以上の管路延長補正率は次式による。
 $y = 0.0079 x^{0.6684}$
 y : 管路延長補正率
 x : 管路延長 (km)

(ロ) 管路施設耐震診断調査業務（詳細診断）

作業項目	作業内容	
	区分	作業の範囲
1. 基礎調査 1-1 管渠情報 収集・整理 1-2 地盤情報 収集・整理 1-3 現地踏査 1-4 現地調査	耐震計算に必要な 資料収集・整理 現場状況の調査 マンホール内部の 調査	竣工図書・設計図書・老朽度調査記録等に基づく構造 諸元・埋設環境の整理 土質資料からの地盤諸元の整理 土地利用、道路状況 耐震計算を行うマンホール内部（管口を含む）の目視 観察、マンホール形状・深さの測定
2. 条件設定		基礎調査で収集した資料等に基づき、耐震計算を実施 するための条件を設定
3. 耐震計算による性能 の定量的評価 (応答変位法)	詳細診断 (レベル1 の場合) (レベル1及び レベル2の場合)	基礎調査に基づく耐震計算、施設ごとの耐震性能の定 量的評価(約1,000m に3 断面、標準マンホール3 箇所) 液状化の判定、マンホールと管渠の接続部及び管渠と 管渠の継手部の計算(地震動による屈曲角・拔出し量)、 マンホール本体の計算 液状化の判定、マンホールの浮き上がり及び目地開口 量の検討、マンホールと管渠の接続部及び管渠と管渠 の継手部の計算(地震動による屈曲角・拔出し量及び 地盤の永久ひずみによる拔出し量)、管渠本体の計算、 マンホール本体の計算、側方流動の検討(注1)、液状 化層厚と沈下量(沈下に伴う屈曲角・拔出し量等)、地 盤急変化部・急曲線等の特殊条件における計算
4. 耐震補強必要箇所の 抽出		補強すべきマンホール及び管路、具体的な部位、補強 内容の抽出・整理
5. 耐震補強対策の検討 5-1 耐震対策の概略 検討 5-2 耐震対策の概算 工事費算出 5-3 耐震対策事業計 画の作成	補強方法・補強構 造の選定 概算工事費の算出 段階的対策計画の 策定	基礎調査と耐震計算の結果に基づいた耐震補強対策の 概略比較検討 屈曲角、拔出し、耐力(強度)、液状化時の浮上・沈下 等に対する耐震補強方法・耐震補強構造の立案と概略 比較による選定 耐震補強方法・耐震補強構造に対する概算工事費の算 出 年度別事業計画の検討、実施工程表の作成
6. 照 査		基礎調査の内容、耐震計算結果、耐震補強方法・耐震 補強構造の選定結果・概算工事費・事業計画、詳細設 計の箇所・内容に関する妥当性
7. 報告書作成		検討概要、基礎調査、診断結果・計算書、耐震補強方 法・耐震補強構造の検討・概算工事費・事業計画、詳 細設計の箇所・内容、追加調査の内容等
8. 打合せ協議	発注者との協議	診断内容の協議

(注) 施設の立地場所が液状化による側方流動が生じやすいと判断された場合、それが施設に与える影響を検討する。

(ハ) 特殊構造物耐震診断調査業務（詳細診断）

作業項目	作業内容	
	区分	作業の範囲
1. 基礎調査 1-1 特殊構造物 情報収集・整理 1-2 現地踏査 1-3 現地作業	特殊構造物の耐震 計算に必要な資料 収集・整理 現場状況の調査 特殊構造物内部の 調査	竣工図書・設計図書・老朽度調査記録等に基づく構造 諸元・地盤諸元の整理 土地利用、道路状況 耐震計算を行う特殊構造物内部（接続部を含む）の目 視観察、特殊構造物の形状・深さの測定
2. 条件設定		基礎調査で収集した資料等に基づき、耐震計算を実施 するための条件を設定
3. 耐震計算による性能 の定量的評価	詳細診断 (レベル1の場合) (レベル1及び レベル2の場合)	基礎調査に基づく耐震計算、特殊構造物の耐震性能の 定量的評価 液状化の判定、特殊構造物と管渠の接続部の計算（地 震動による屈曲角・拔出し量）、特殊構造物本体の計算 液状化の判定、浮き上がり及び目地開口量の検討、特 殊構造物と管渠の接続部の計算（地震動による屈曲角 ・拔出し量）、特殊構造物本体の計算
4. 耐震補強対策の検討 4-1 耐震対策の 概略検討 4-2 耐震対策の概 算工事費算出	補強方法・補強 構造の選定 概算工事費の算出	基礎調査と耐震計算の結果に基づいた耐震補強対策の 概略比較検討 特殊構造物と管渠の接続部の屈曲角・拔出し、応力度、 耐震補強方法・耐震補強構造の立案と概略比較による 選定 耐震補強方法・耐震補強構造に対する概算工事費の算 出
5. 照 査		基礎調査の内容、耐震計算結果、耐震補強方法・耐震 補強構造の選定結果・概算工事費、詳細設計の内容に 関する妥当性
6. 報告書作成		検討概要、基礎調査、診断結果・計算書、耐震補強方 法・耐震補強構造の検討・概算工事費・事業計画、詳 細設計の箇所・内容、追加調査の内容等
7. 打合せ協議	発注者との協議	診断内容の協議

(ニ) 管路施設耐震実施設計業務（詳細設計）

管路施設耐震実施設計業務（詳細設計）の布設替え工法及び管更生工法に係る標準業務内容については、〔I〕
管路施設実施設計業務、1-1 標準業務内容、(ハ) 管路施設実施設計業務（改築・詳細設計）によるものとする。

4-2 標準歩掛及び補正

(1) 標準歩掛

(イ) 管路施設耐震診断調査業務（簡易診断）【DGS30100~DGS30111】

a) 雨水・汚水共

本歩掛は、管路施設耐震診断調査業務（簡易診断）を雨水、汚水同時に委託する場合に適用する。

表-IV-1 管路施設耐震診断調査（簡易診断）（雨水・汚水共）基準歩掛

(300ha当り) (単位:人)

作業項目		技師長	主任技師	技師(A)	技師(B)	技師(C)	技術員
基礎調査	管路情報収集・整理	—	1.0	1.5	2.5	3.5	2.0
	地盤情報収集・整理	—	0.5	1.0	2.5	3.5	2.0
	防災・利水情報収集・整理	—	—	0.5	1.0	2.0	1.0
	現地踏査	—	1.0	1.5	1.5	1.0	—
	現地作業	—	0.5	1.0	1.5	1.0	—
重要な幹線等の設定		—	0.5	1.0	2.0	2.0	1.0
耐震性能の定性的評価		—	1.5	3.0	3.5	3.0	2.5
詳細診断の優先順位の判定		—	2.0	3.0	3.0	1.5	0.5
診断範囲の検討及び追加調査の検討		—	1.5	2.0	1.5	1.5	—
照査		1.0	2.0	—	—	—	—
報告書作成		表-IV-3による					
設計協議		表-IV-4による					
計		1.0	10.5	14.5	19.0	19.0	9.0

(注) 1 管路情報収集・整理は、管路の電子化情報の有無により、次表の補正を行う。

管路の電子化情報	補正率
有り	1.00
無し（調査対象：幹線のみ）	2.39
無し（調査対象：枝線まで）	3.69

2 報告書作成、設計協議は、面積補正は行わない。

b) 合流、分流汚水（雨水）のみ

本歩掛は、管路施設耐震診断調査業務（簡易診断）を合流、分流汚水または分流雨水のみ委託する場合に適用する。

表-IV-2 管路施設耐震診断調査（簡易診断）（合流、分流汚水（雨水）のみ）基準歩掛
（300ha当り）（単位：人）

作業項目		技師長	主任技師	技師(A)	技師(B)	技師(C)	技術員
基礎調査	管路情報収集・整理	—	1.0	1.0	2.0	2.5	1.0
	地盤情報収集・整理	—	0.5	1.0	2.5	3.5	2.0
	防災・利水情報収集・整理	—	—	0.5	1.0	1.5	1.0
	現地踏査	—	0.5	1.0	1.5	1.0	—
	現地作業	—	0.5	1.0	1.5	1.0	—
重要な幹線等の設定		—	0.5	1.0	1.5	1.5	1.0
耐震性能の定性的評価		—	1.0	2.5	3.5	3.0	2.0
詳細診断の優先順位の判定		—	1.0	2.0	2.5	1.0	0.5
詳細診断の範囲検討及び追加調査の検討		—	1.0	2.0	1.0	1.0	—
照査		1.0	1.5	—	—	—	—
報告書作成		表-IV-3による					
設計協議		表-IV-4による					
計		1.0	7.5	12.0	17.0	16.0	7.5

(注) 1 管路情報収集・整理は、管路の電子化情報の有無により、次表の補正を行う。

管路の電子化情報	補正率
有り	1.00
無し（調査対象：幹線のみ）	2.39
無し（調査対象：枝線まで）	3.69

2 報告書作成、設計協議は、面積補正は行わない。

c) 報告書作成（簡易診断）

本歩掛は、管路施設耐震診断調査（簡易診断）において報告書を作成する場合に適用する。

なお、本歩掛は、管路施設の耐震診断調査に付随して適用するものであり、報告書作成を単独の業務で行う場合は設計協議を計上するものとする。

表-IV-3 報告書作成（簡易診断）基準歩掛（1式当り）（単位：人）

作業項目	技術長	主任技師	技師(A)	技師(B)	技師(C)	技術員
報告書作成	—	1.0	3.0	3.5	1.0	—

d) 設計協議（簡易診断）

表-IV-4 設計協議（簡易診断）基準歩掛（単位：人）

作業項目	技師長	主任技師	技師(A)	技師(B)	技師(C)	技術員	備考
第1回打合せ	—	1.0	1.0	—	—	—	
中間打合せ	—	1.0	1.0	1.0	—	—	1回当り
最終打合せ	—	1.0	1.0	—	—	—	

- (注) 1 中間打合せは、業務の重要な区切りにおいて行うものである。一般的な業務における中間打合せは、「重要な幹線等の設定」、「詳細診断の優先順位の判定」、「詳細診断の範囲検討及び追加調査の検討」の3回とし、業務規模・内容等を考慮して必要な回数を計上する。
- 2 関係機関との協議等、発注者以外との協議が必要となる場合、その回数を中間打合せとして追加計上する。

作業項目	技師長	主任技師	技師(A)	技師(B)	技師(C)	技術員
6. 長期改築・修繕計画の策定						
6-1 改築需要量の検討	—	1.0	2.0	3.0	2.5	3.5
6-2 改築シナリオの選定	—	2.5	3.5	4.5	3.0	1.0
6-3 長期改築修繕計画のとりまとめ	0.5	1.0	2.5	2.5	2.0	1.0
小計	0.5	4.5	8.0	10.0	7.5	5.5
7. 短期改築計画(長寿命化計画)の策定	表-VI-4による					
小計						
8. 短期修繕計画の策定						
8-1 対象施設の選定	—	1.0	1.0	2.0	1.0	—
8-2 短期修繕計画の策定	—	1.5	2.5	3.0	2.0	0.5
8-3 修繕計画のとりまとめ	0.5	2.0	2.5	0.5	0.5	1.0
小計	0.5	4.5	6.0	5.5	3.5	1.5
9. 関係機関への説明資料作成	(別途計上)					
10. 照査	0.5	2.0	2.0	—	—	—
11. 報告書作成	表-VI-5による					
12. 設計協議	表-VI-6による					
計	1.5	25.0	44.0	49.0	31.0	17.5

- (注) 1 「7. 短期改築計画(長寿命化計画)の策定」のみを計上する場合は、「10. 照査」は計上しない。
- 2 マンホール、取付管・ます、マンホールふたを対象施設とする場合は、30%を上限に本歩掛を割増しすることができる。
- 3 「5-2 点検・調査項目の検討」、「5-3 点検・調査判定基準の検討」、「7. 短期改築計画」、「11. 報告書作成」、「12. 設計協議」は補正を行わない。
ただし、「7. 短期改築計画」は、別途延長補正及び必要に応じてマンホール、取付管・ます、マンホールふたに関する割増しを行い上記歩掛に付加する。
- 4 紙媒体の収集資料からの電子データへの入力・変換作業等 施設情報の電子データ化が必要な場合は、その費用を別途計上する。
- 5 地質調査・水質調査・劣化度調査・不明水調査の費用は別途計上する。
- 6 関係機関への説明資料を作成する場合は、その費用を別途計上する。
- 7 ポンプ場、マンホールポンプ場(機械設備・電機設備を含む)の施設管理計画の策定を行う場合は、その費用を別途計上する。
- 8 下水道台帳システムへ電子データを移行する場合は、その費用を別途計上する。
- 9 既設管の流量計算書を作成する場合は、その費用を別途計上する。

作業項目	技師長	主任技師	技師(A)	技師(B)	技師(C)	技術員
6. 長期改築・修繕計画の策定						
6-1 改築需要量の検討	—	1.0	1.5	2.0	1.0	1.0
6-2 改築シナリオの選定	—	1.5	1.5	2.0	2.5	1.0
6-3 長期改築修繕計画のとりまとめ	0.5	1.0	2.0	2.0	2.0	1.0
小計	0.5	3.5	5.0	6.0	5.5	3.0
7. 短期改築計画(長寿命化計画)の策定	表-VI-4による					
小計						
8. 短期修繕計画の策定						
8-1 対象施設の選定	—	0.5	1.0	1.0	0.5	—
8-2 短期修繕計画の策定	—	1.5	2.0	2.0	2.0	0.5
8-3 修繕計画のとりまとめ	0.5	1.5	1.5	0.5	0.5	0.5
小計	0.5	3.5	4.5	3.5	3.0	1.0
9. 関係機関への説明資料作成	(別途計上)					
10. 照査	0.5	2.0	1.5	—	—	—
11. 報告書作成	表-VI-5による					
12. 設計協議	表-VI-6による					
計	1.5	20.5	31.5	31.0	24.0	13.0

- (注) 1 「7. 短期改築計画(長寿命化計画)の策定」のみを計上する場合は、「10. 照査」は計上しない。
- 2 マンホール、取付管・ます、マンホールふたを対象施設とする場合は、30%を上限に本歩掛を割増しすることができる。
- 3 「5-2 点検・調査項目の検討」、「5-3 点検・調査判定基準の検討」、「7. 短期改築計画」、「11. 報告書作成」、「12. 設計協議」は補正を行わない。
ただし、「7. 短期改築計画」は、別途延長補正及び必要に応じてマンホール、取付管・ます、マンホールふたに関する割増しを行い上記歩掛に付加する。
- 4 紙媒体の収集資料からの電子データへの入力・変換作業等 施設情報の電子データ化が必要な場合は、その費用を別途計上する。
- 5 地質調査・水質調査・劣化度調査・不明水調査の費用は別途計上する。
- 6 関係機関への説明資料を作成する場合は、その費用を別途計上する。
- 7 ポンプ場、マンホールポンプ場(機械設備・電機設備を含む)の施設管理計画の策定を行う場合は、その費用を別途計上する。
- 8 下水道台帳システムへ電子データを移行する場合は、その費用を別途計上する。
- 9 既設管の流量計算書を作成する場合は、その費用を別途計上する。